

様式第4 [基本計画標準様式]

- 基本計画の名称：草津市中心市街地活性化基本計画
- 作成主体：滋賀県草津市
- 計画期間：平成25年12月から平成31年3月まで（5年4箇月間）

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

[1] 草津市の概況

(1) 草津市の位置

① 草津市の位置・規模

◎ コンパクトなまち

草津市は、滋賀県の南東部に位置し、琵琶湖と大津市、栗東市、守山市の3市に隣接している。市域は、南北約13.2km、東西約10.9kmとやや南北に広がった、総面積67.92km²（琵琶湖面積を除き48.22km²）のまちである。

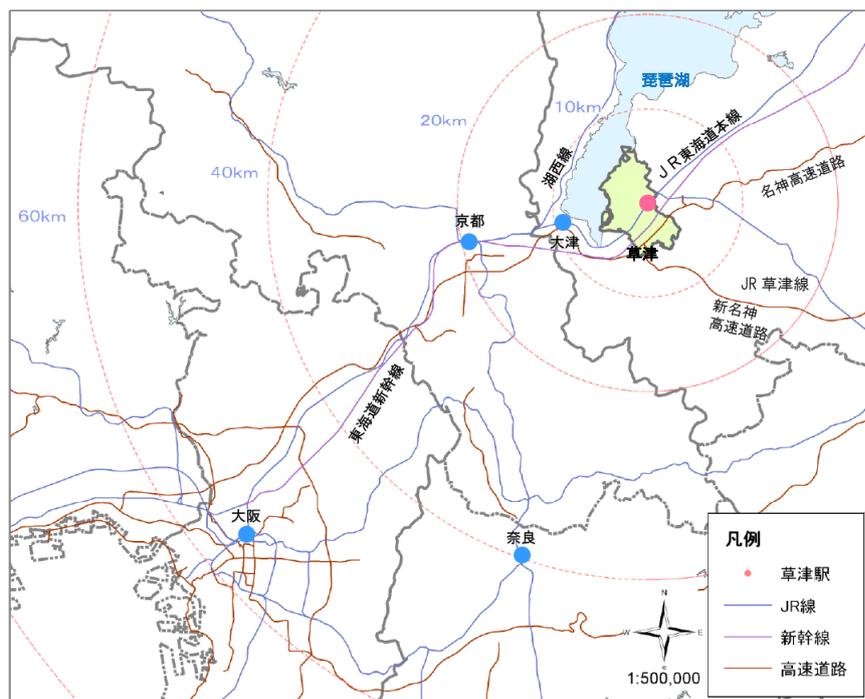
② 広域交通ネットワーク

◎ 古くからの交通の要衝

江戸時代に東海道と中山道の追分であった草津市は、古来、交通の要衝として発展してきた。

現在も、市内を国道1号や京滋バイパスが通過するほか、名神高速道路と新名神高速道路が合流する草津田上ICがあり、広域交通の要衝となっているほか、市内にはJR東海道本線の草津駅と南草津駅があり、京都まで約20分（22km）、大阪まで約50分（65km）と、京阪神都市圏に近接する位置にある。

また、JR草津駅はJR草津線も乗り入れており、滋賀県湖南・甲賀地域からのアクセス性が高く、広域圏の中心的な役割を果たす地域となっている。



● 図1-1 草津市周辺の交通ネットワーク

(2) 草津市の沿革

①歴史

◎東海道の宿場・草津宿、天井川の草津川など古くからの歴史がある

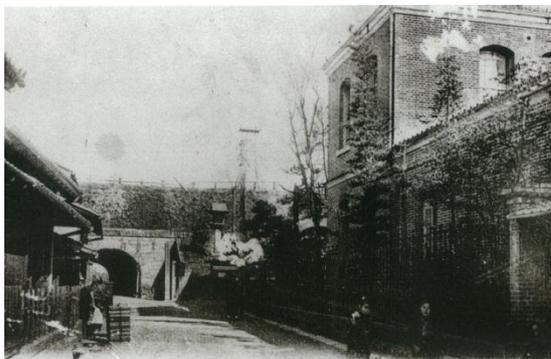
草津市は古くから東西交通の要衝にあり、とりわけ江戸時代には東海道・中山道の分岐・合流する宿場としてにぎわいを見せていた。また、琵琶湖岸には矢橋、山田、志那などの港があり、湖上交通の拠点としての機能も有していた。

その後、草津市は、かつての宿場町を核として発展を見せ、明治には鉄道駅である草津駅が開業し、江戸時代の東海道・中山道の分岐点の位置を継承した東海道線と草津線の分岐駅となった。その後も、国道や名神高速、新名神高速などの道路交通網の整備発展においても、交通の要衝としての機能を継承し続け、今日に至っている。

市中心部を東西に流れ、琵琶湖に注ぐかつての草津川は、まちなかを流れる天井川の景観を呈し、鉄道や国道などが河川の下をくぐっている。この天井川、河川としてはすでに役割を終えたが、その跡地には明治期に植樹された桜並木があり、市民の憩いの場となっている。



●図 1-2 江戸時代の草津を描いた浮世絵（浮世絵「木曾海道六拾九次」、「東海道五拾三次」）



●図 1-3 明治末期のマンポ周辺の様子



●図 1-4 昭和中頃のマンポ周辺の様子



●図 1-5 現在の草津追分（道標、マンポ）





● 図 1-6 かつての草津宿エリアであったところのまちなみを示したもの（出典：草津宿街道交流館）

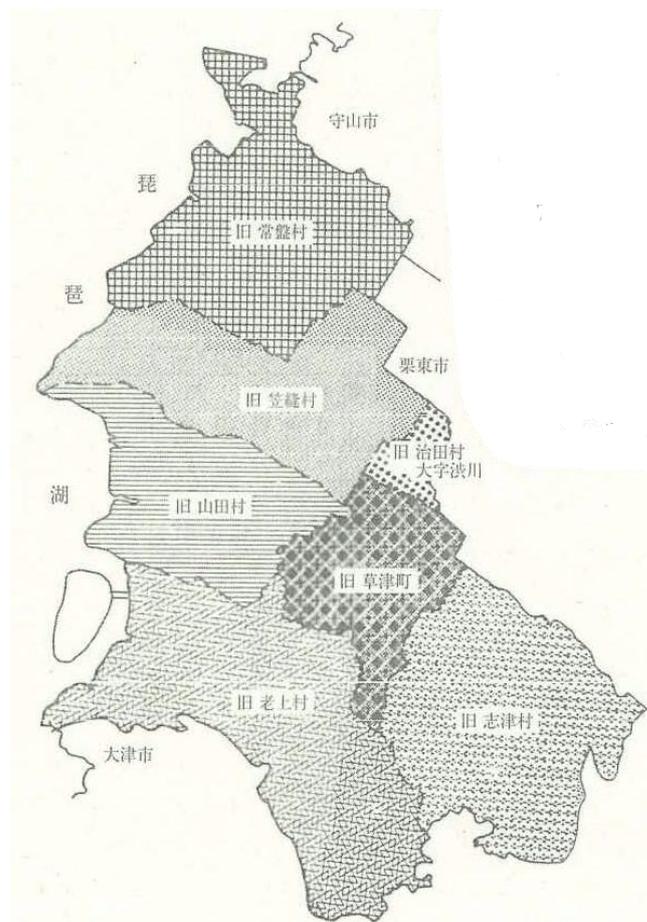
②合併による市域の変遷

◎ 7市町村が合併して現在の草津市を形成

草津市は、1954年（昭和29年）に、草津町と近隣の志津村、老上村、山田村、笠縫村、常盤村が合併して設立されている。1956年（昭和31年）には、栗太郡栗東町大字渋川が栗東町から草津市に編入し、現在の草津市の市域を形成している。

年月日	市域面積 (k㎡)	
S. 29. 10. 15	46. 30	市政施行
S31. 9. 1	47. 55	栗東町渋川編入
S54. 10. 1	47. 58	公有水面埋立
S56. 3. 1	47. 58	守山市境界変更
S56. 4. 1	47. 55	栗東町境界変更
S61. 2. 1	47. 57	公有水面埋立
S61. 6. 1	47. 57	栗東町境界変更
S61. 10. 1	48. 24	矢橋帰帆島編入
S63. 10. 1	48. 16	国土地理院基本測量
H1. 7. 28	48. 18	公有水面埋立
H4. 6. 17	48. 21	公有水面埋立
H5. 12. 17	48. 25	公有水面埋立
H6. 12. 9	48. 25	守山市境界変更
H7. 10. 1	48. 22	国土地理院基本測量
H8. 1. 17	48. 22	栗東町境界変更
H20. 2. 1	67. 92	琵琶湖における市町境界設定

●表 1-1 草津市の市域面積の変遷



●図 1-7 草津市の変遷

③市街地の変遷

◎かつての宿場町とJR草津駅を中心に市街地が形成

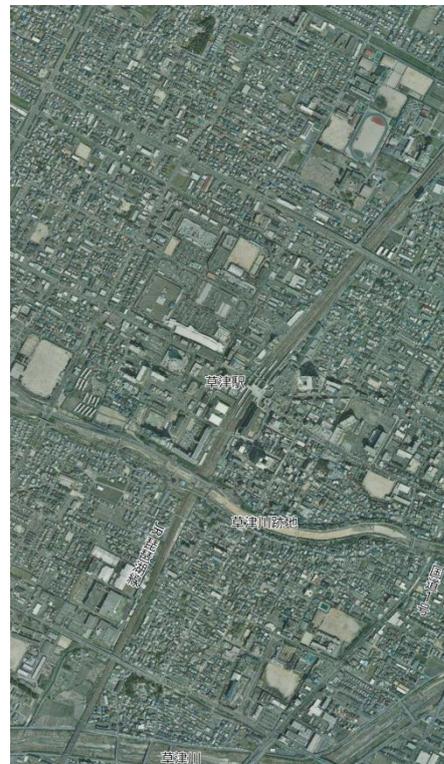
草津市の市街地は、草津宿を中心に栄えた江戸時代から時を経て、1889年（明治22年）の鉄道駅の草津駅の開設とともに、駅を中心に市街化が進んできた。1994年（平成6年）に、JR草津駅とJR瀬田駅間にJR南草津駅が新設され、双眼の核として市街地が形成されつつある。



● 図 1-8 明治 25 年の草津周辺の様子



● 図 1-9 昭和 45 年の草津周辺の様子

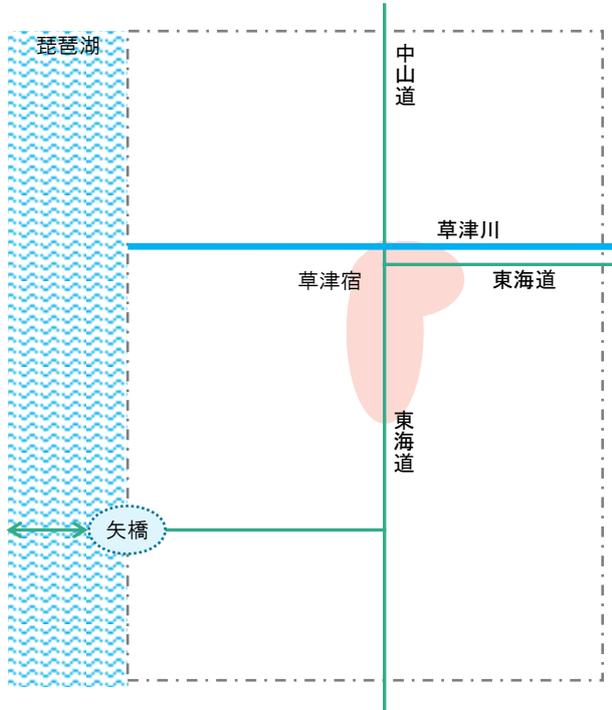


● 図 1-10 草津中心部（左：昭和 22 年頃、右：平成 22 年）

草津市の市街化の変遷（イメージ）

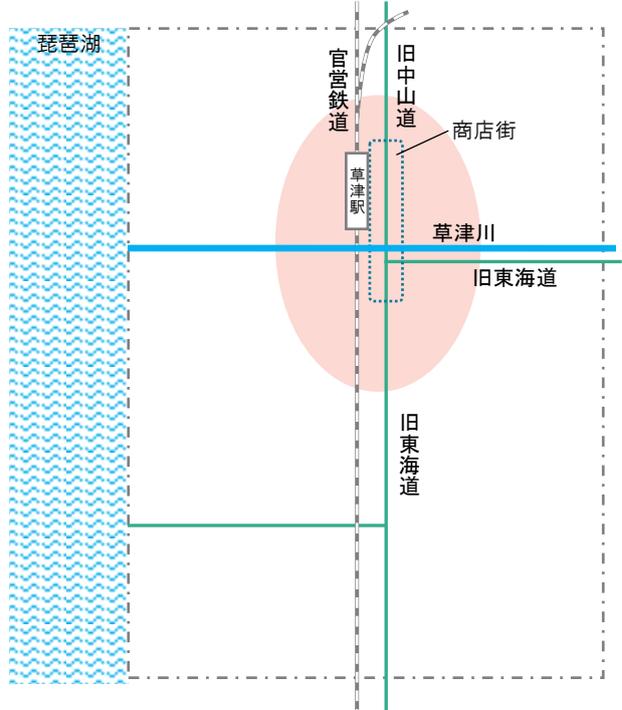
近世（～江戸期）

- ・東海道の宿場町としてまちが形成
- ・大半は農地で集落が点在



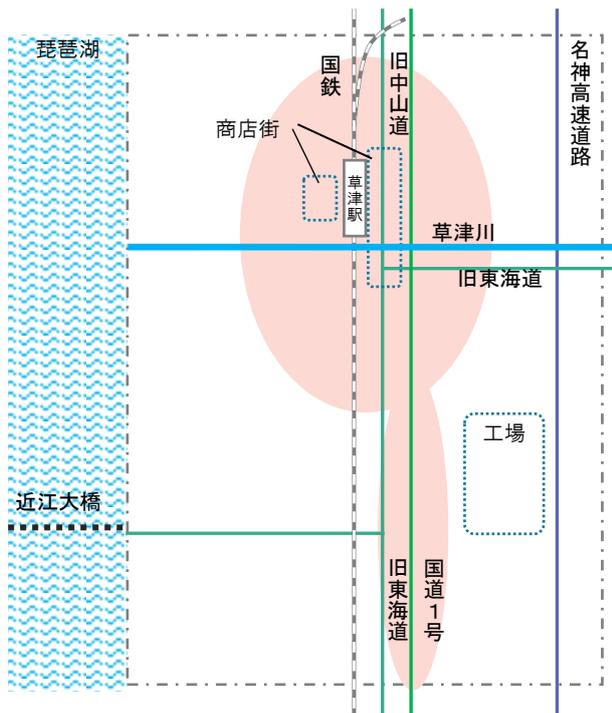
近代（明治期）

- ・鉄道開業に伴い、商店街が形成し、それに沿って、まちが拡大
- ・大半は農地で集落が点在



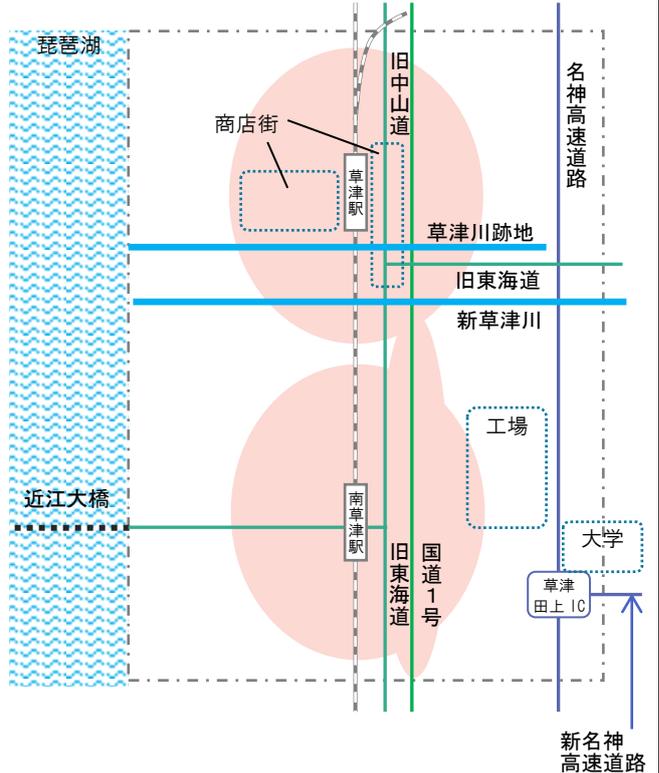
高度成長期（昭和期）

- ・国道1号、名神高速道路、近江大橋の開通に伴い、沿道の利用や工場の立地が始まる
- ・西口開業、人口増加に伴い、まちが拡大



近年（平成期）

- ・南草津駅開業やIC開業に伴い、まちが形成され、大学や工場の立地が進む
- ・人口増加に伴い、まちが拡大



(3) 草津市の地形と自然

①地形と気候

◎琵琶湖から丘陵部へとなだらかな地形

草津市域の西側は、日本最大の湖である琵琶湖に面し、湖岸から田園地帯が広がり、さらに市街地、東南部の丘陵は金勝山や龍王山などからなる「湖南アルプス」の山々を背景に、なだらかに続く地形を有している。

◎盆地特有の夏暑く冬寒い気候

滋賀県はほとんどが盆地であるため、夏暑く冬寒いという特徴があり、草津市も同様である。草津市は県内でも温暖な気候に恵まれており、大津観測地点の平成 23 年（平成 22 年）の気象に関するデータは以下の通りである。

年間平均気温：15.3℃（平成 23 年）

最高月平均気温：28.1℃（平成 23 年 8 月）

最低月平均気温：2.6℃（平成 23 年 1 月）

降水日数（1mm以上）：104 日（平成 22 年）

年間降水量：1549.5mm（平成 23 年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
日平均気温(℃)	2.6	5.1	6.1	11.5	18.2	23.5	27.1	28.1	24.1	17.8	13.3	6.5	15.3
合計降水量(mm)	8.0	97.0	69.5	120.0	483.0	178.0	227.0	80.0	236.0	139.0	75.0	6.5	143.3

●表 1-2 日平均気温と合計降水量（観測地点：大津）（出典：気象庁）



●図 1-11 琵琶湖、山並みを望む

②自然

◎琵琶湖の動植物、天井川であった草津川跡地など自然が残る

草津市は、市域の西側を国内最大の湖である琵琶湖に面している。市域の最北、琵琶湖に突き出す烏丸半島周辺には約13haにも及ぶわが国有数の蓮の群生地があり、琵琶湖の原風景といわれるヨシ原が今もその姿をとどめている。また、草津市は琵琶湖岸にコハクチョウが飛来する南限であると言われており、琵琶湖岸では四季折々で様々な動植物の姿を見ることが出来るなど、豊かな自然環境を有している。

草津市の市街地には、典型的な天井川で、度重なる災害をもたらしていた草津川が流れていたが治水事業として中流域から琵琶湖にかけて草津川放水路が開削されたため、2002年（平成14年）、天井川を成していた旧河道は廃川となった。現在、跡地の利活用を検討しており、今後、草津市ならではのガーデンミュージアムとして整備していく予定である。



●図 1-12 烏丸半島の蓮の群生



●図 1-13 琵琶湖岸の様子



●図 1-14 琵琶湖に飛来するコハクチョウ



●図 1-15 廃川となった草津川跡地



[2] 中心市街地の現況把握

(1) 中心市街地の概況

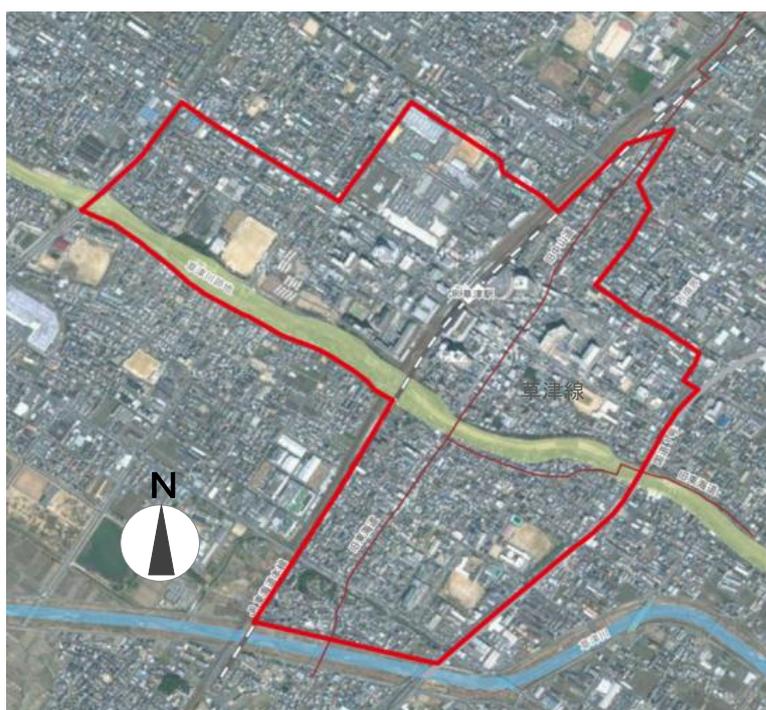
① 中心市街地の範囲

◎ JR 草津駅を中心とした 197ha

草津市の中心市街地は、本市のほぼ中央東寄りに位置し、JR 草津駅を中心とした面積 197ha の地区である。



● 図 1-16 中心市街地の位置図



● 図 1-17 区域周辺の航空写真

② 中心市街地の現況

◎ それぞれ特長のある発展を遂げてきた三つのエリア

東海道の宿場町を中心に市街地が形成された本陣周辺エリア、JR 草津駅を中心に市街地が形成された駅東エリア、人口増加とまちの拡大に伴い市街地が形成された駅西エリアによって構成している中心市街地エリアは、草津川と JR 東海道線（琵琶湖線）により、それぞれ特長のある発展を遂げてきた。

◎ 古くからのまちなみが残る

草津川跡地の南側にはかつての東海道と中山道の分岐・合流点があり、街道沿いには国の登録文化財に登録されている建築物を含む、商店を中心とした古くからのまちなみが残っている。さらに国史跡草津宿本陣は多くの観光客が訪れ、中心市街地内の重要な観光資源となっている。

◎ 商業機能や業務機能の集積、公共交通の拠点

中心市街地には商店街や大規模小売店舗等の商業機能、市役所等の業務機能が集積しており、さらに草津駅は鉄道やバスの公共交通の拠点にもなっている。

◎ 大型店や高齢化の影響で商業機能は低下

モータリゼーションの進展とともに大型商業施設が郊外のロードサイドに進出したことで、中心市街地の商業機能は急速に低下し、特に商店街を中心とする小規模な小売店はその数が大きく減少した。

また、本陣周辺エリアの高齢化の進展や、それに伴う空き家・空き店舗の増加（平成 14 年以降から増加し続けている）により、今後さらに衰退が進む恐れがある。



● 図 1-18 古いまちなみ



● 図 1-19 草津駅と大規模商業施設



● 図 1-20 草津駅西口商店街



● 図 1-21 草津駅東口商店街

(2) 既存ストックの状況

①歴史・文化的資源

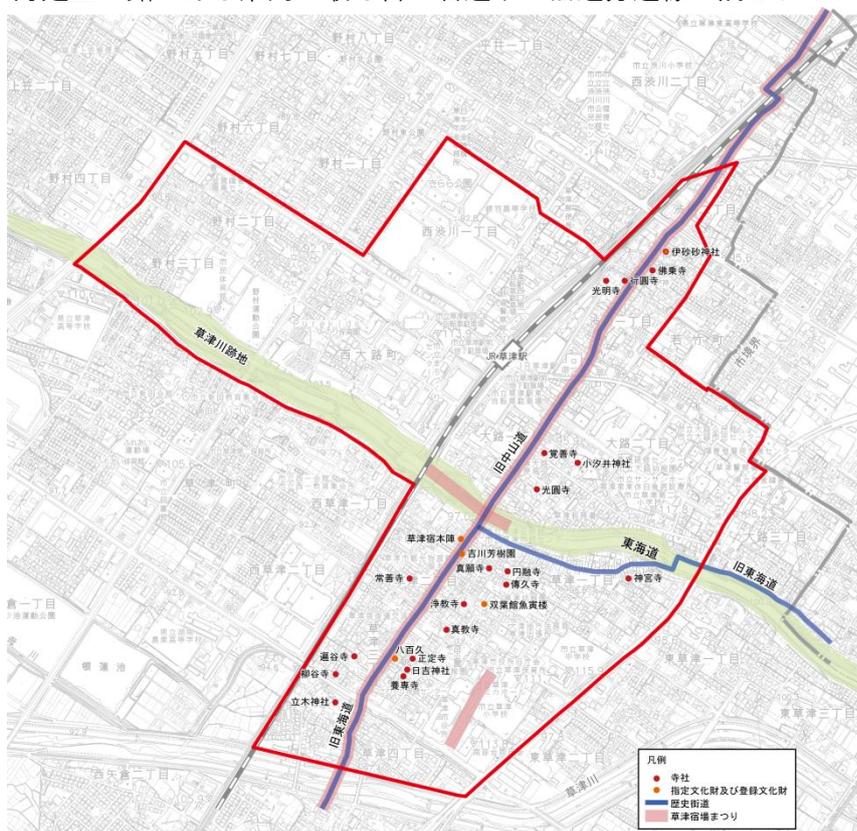
◎旧街道沿いに歴史・文化的資源がある

中心市街地内には、江戸時代の東海道・中山道に沿って面影を残す寺社や歴史的建造物が残っている。

東海道と中山道の分岐・合流点である草津宿は、交通の要衝で、東海道五十三次の江戸から52番目の宿場であった。天保14(1843)年の記録によれば、草津宿には2軒の本陣、2軒の脇本陣、72軒の旅籠のほか、問屋場、貫目改所などが設けられ、多くの旅人で賑わっていた。

中でも本陣は、大名などの専用休泊施設として広大な屋敷を有する、草津宿で最も重要な施設であった。草津宿にあった本陣の一つ「田中七左衛門本陣」は、当時の姿をほぼどめる近世交通史上貴重な記念物として、昭和24(1949)年に国の史跡に指定され、現在も東海道筋随一の本陣として大切に保存され、宿場町草津のシンボルとなっている。

草津宿南側の出入り口に鎮座する立木神社は、1200余年の歴史を有する古社である。境内には延宝8(1680)年11月建立の銘がある県内で最も古い石造りの旧追分道標が残されている。



●図 1-22 歴史・文化的資源の分布



●図 1-23 草津宿本陣



●図 1-24 立木神社

◎歴史・文化的資源を活用した取り組みが行われている

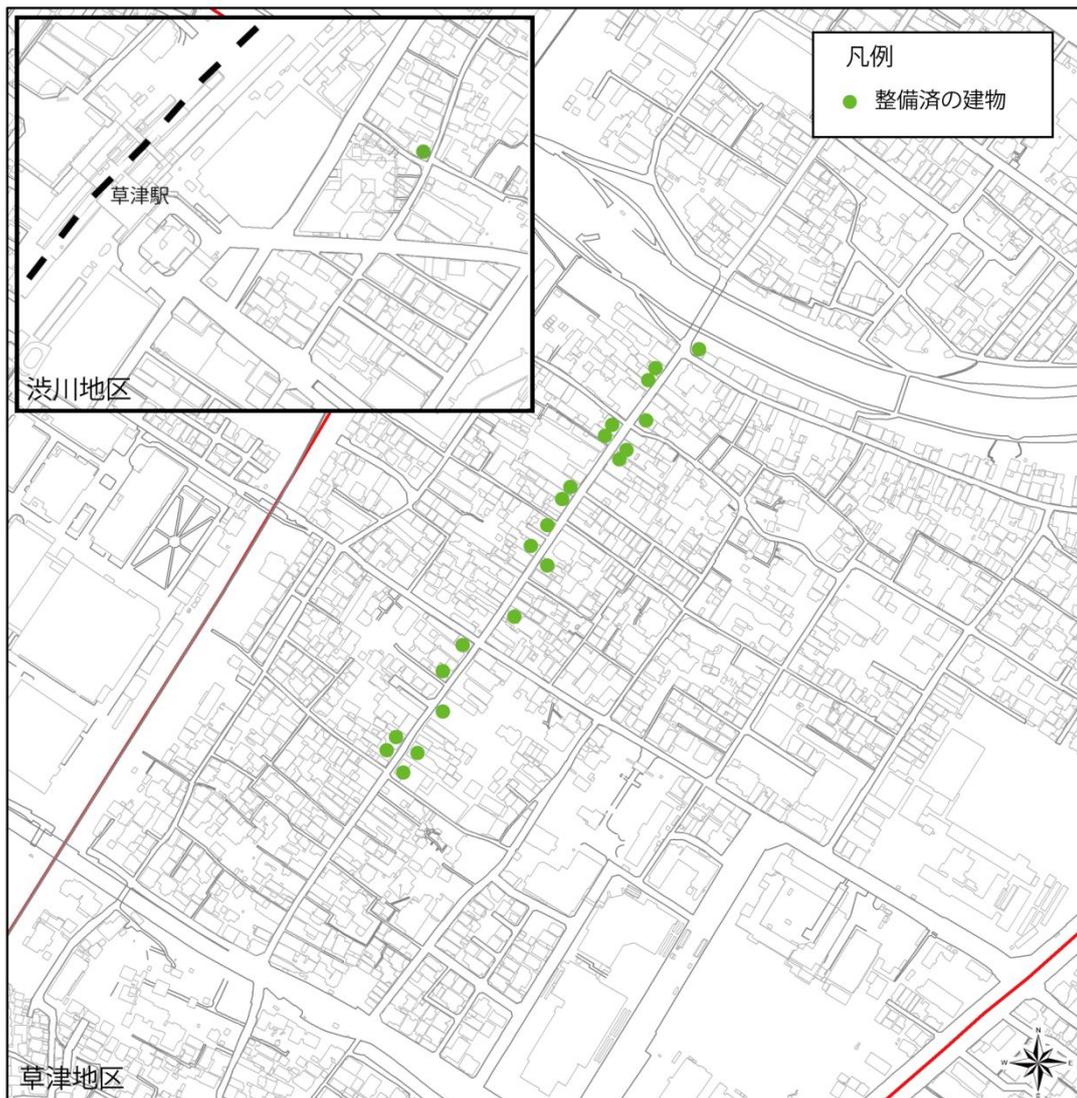
このような歴史・文化的資源を継承し、さらにその価値を高めるため、様々な事業や制度が設けられており、旧街道の道路整備や旧街道沿いの建物のファサード整備を進めている。また、毎年4月に開催される草津宿場まつりは、平成25年には45回目を迎え、草津時代行列やパレード等のイベントに毎年7万人ほどの市民や観光客が訪れ、重要な観光資源のひとつとなっている。



● 図 1-25 ファサード整備を行った
東海道沿道の建物



● 図 1-26 草津宿場まつり



● 図 1-27 ファサード整備を行った建物の分布（平成24年度草津市商業観光課資料より作成）

②景観資源

◎草津川跡地の桜、歴史街道のまちなみ、美しい自然景観と都市景観がある

市街地から西方を眺めると、広大な田園風景と琵琶湖、そして対岸の山並みとが美しい自然景観をかたちづくっており、四季によって刻々と変化し続けている。

草津市中心部に位置する草津川跡地は、草津市の中心市街地を東西に貫流していた約5.7kmの平成14年7月に廃川となった河川で、川床が民家の屋根より高い全国的にも有名な天井川であった。4月になると桜並木（ソメイヨシノ）が満開となり、市民の憩いの場となっている。また、堤防には琵琶湖へと続くサイクルロードが通じ、サイクリングが楽しめる。草津市では、こうした桜並木を活かしたまちづくりを推進するため、平成18年3月1日桜憲章を制定した。平成22年には、明治43年に桜が植栽されはじめてから100周年を迎えた。

また、旧街道沿いには商店や寺社を中心とした古いまちなみが連なり、歴史的な景観を生み出している。

さらに、JR草津駅周辺には、大型店（百貨店、スーパーマーケット）、店舗付高層マンションや大型複合店（ショッピングセンター）などの大型商業施設の集積が見られ、都市景観を形成している。



●図 1-28 廃川前の草津川の桜並木



●図 1-29 草津川跡地の桜並木



●図 1-30 東海道のまちなみ



●図 1-31 中山道のまちなみ

③社会資本や産業資源

◎大型店と商店街による商業機能の集積

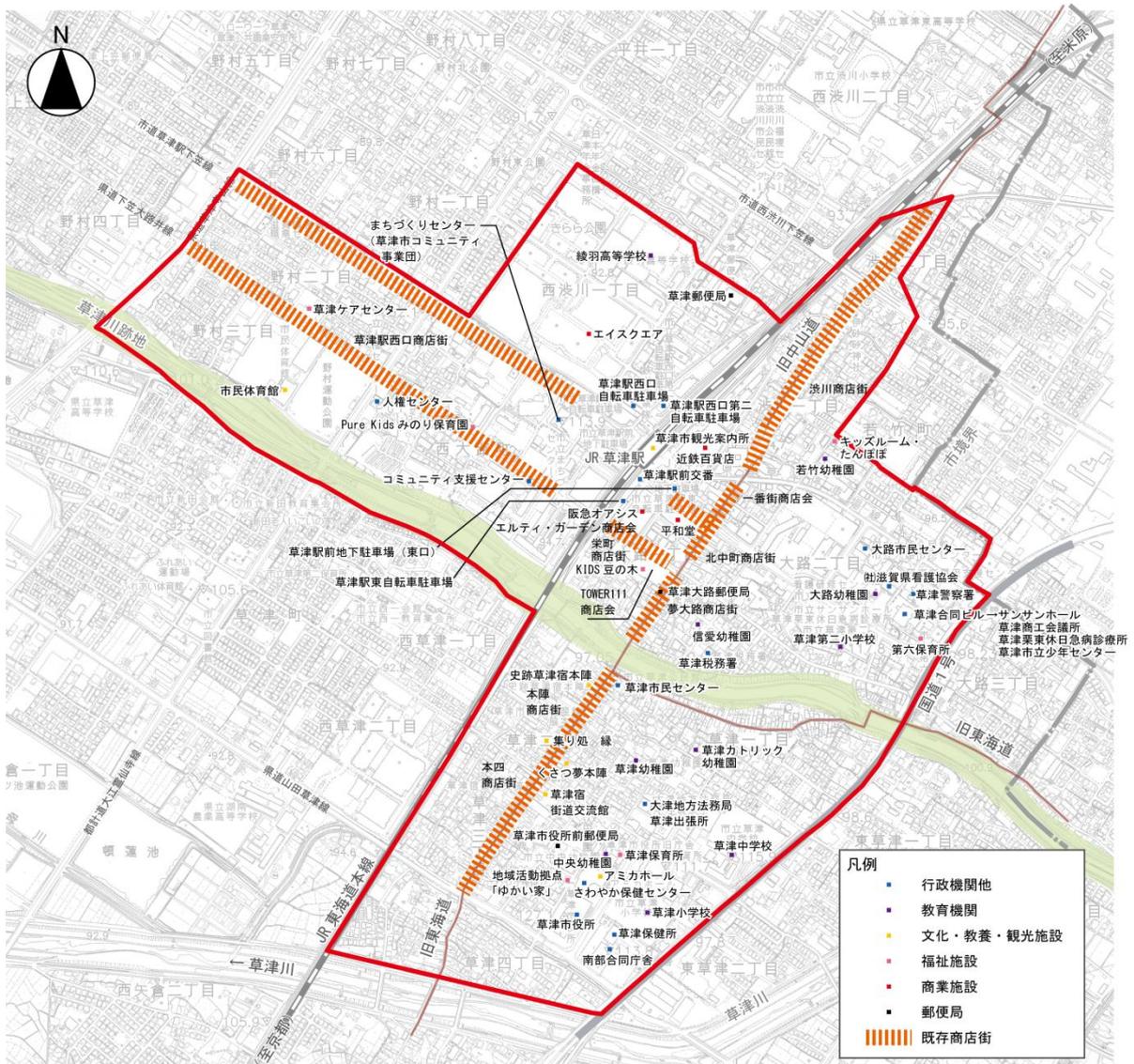
商業については、本陣商店街、本四商店街、夢大路商店街、栄町商店街、北中町商店街、一番街商店街、渋川商店街、草津駅西口商店街、エルティ・ガーデン商店会、TOWER111 商店会などの商店街・商店会及び平和堂や近鉄百貨店、エイスクエアなどの大型店で中心商業地が形成されている。近年は古くからの業者が少なくなる一方で、全国チェーンの居酒屋などの飲食店の出店が増加している。

◎行政施設、福祉施設、まちづくり拠点、教育施設の点在

公共公益施設としては、中心市街地内に、草津市役所、南部合同庁舎などの行政施設、さわやか保健センターや草津ケアセンターなどの福祉施設、まちづくりセンターやコミュニティ支援センターなどのまちづくり拠点、中央幼稚園や草津保育所、草津小学校、草津中学校などの教育機関などの施設が多く点在している。

◎京阪神への利便性の高い公共交通の拠点

公共交通としては、JR 草津駅に東海道本線（琵琶湖線）の新快速が停車し、京都まで約20分、大阪まで約50分で行くことが可能である。また、JR 草津駅を中心に、民間事業者によるバス路線やコミュニティバス（まめバス）が主要な施設を結んでいる。



● 図 1-32 公共公益施設の分布

◎点在する公園、草津川跡地による緑の空間

市民の憩いの場となる公園としては、町家風の建物を模した趣のある込田公園、グラウンドやテニスコートのある野村運動公園、その他、緑が少ない小規模な公園が点在している。また、草津川跡地は中心市街地に残された貴重な緑の空間として、まちにうるおいを与えている。



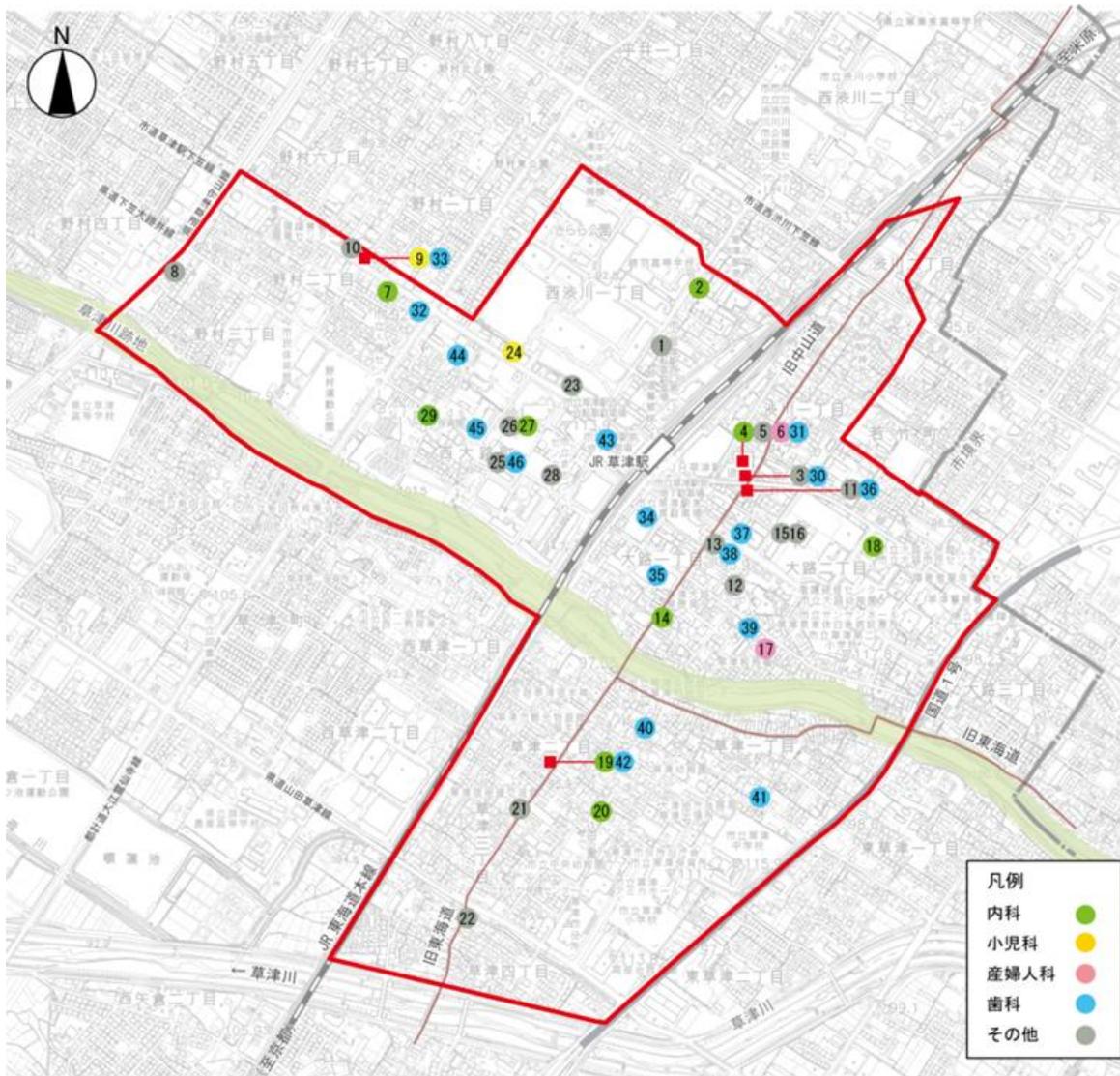
● 図 1-33 公園の分布

番号	名称	所在地	面積(m ²)
1	野村南堀池児童遊園	野村2丁目	92.0
2	野村上小畑児童遊園	野村2丁目	104.6
3	野村上十九児童遊園	野村2丁目	110.4
4	野村下伊屋田児童遊園	野村3丁目	113.9
5	西渋谷深田児童公園(きらら公園)	西渋谷1丁目	1551.4
6	西大路笠ノ庄児童遊園	西大路町	321.9
7	西大路列草児童遊園	西大路町	750.6
8	樋ノ上児童遊園	渋谷2丁目	369.8
9	渋谷中央児童遊園	渋谷1丁目	464.2
10	若竹神子作児童遊園	若竹町	201.3
11	大路五反田児童遊園	大路2丁目	132.6
12	込田公園	草津3丁目	5137.6

● 表 1-3 公園の概要

◎中心市街地内に点在する小規模医療施設と市内広域での連携が図れた大規模医療施設

医療施設としては、内科9施設、小児科2施設、産婦人科2施設、歯科17施設、その他16施設が中心市街地内に集積している。また、それらの医療施設で十分でない部分については、市内外の大規模医療施設と広域的な連携を図っており、十分な医療体制が整っている。



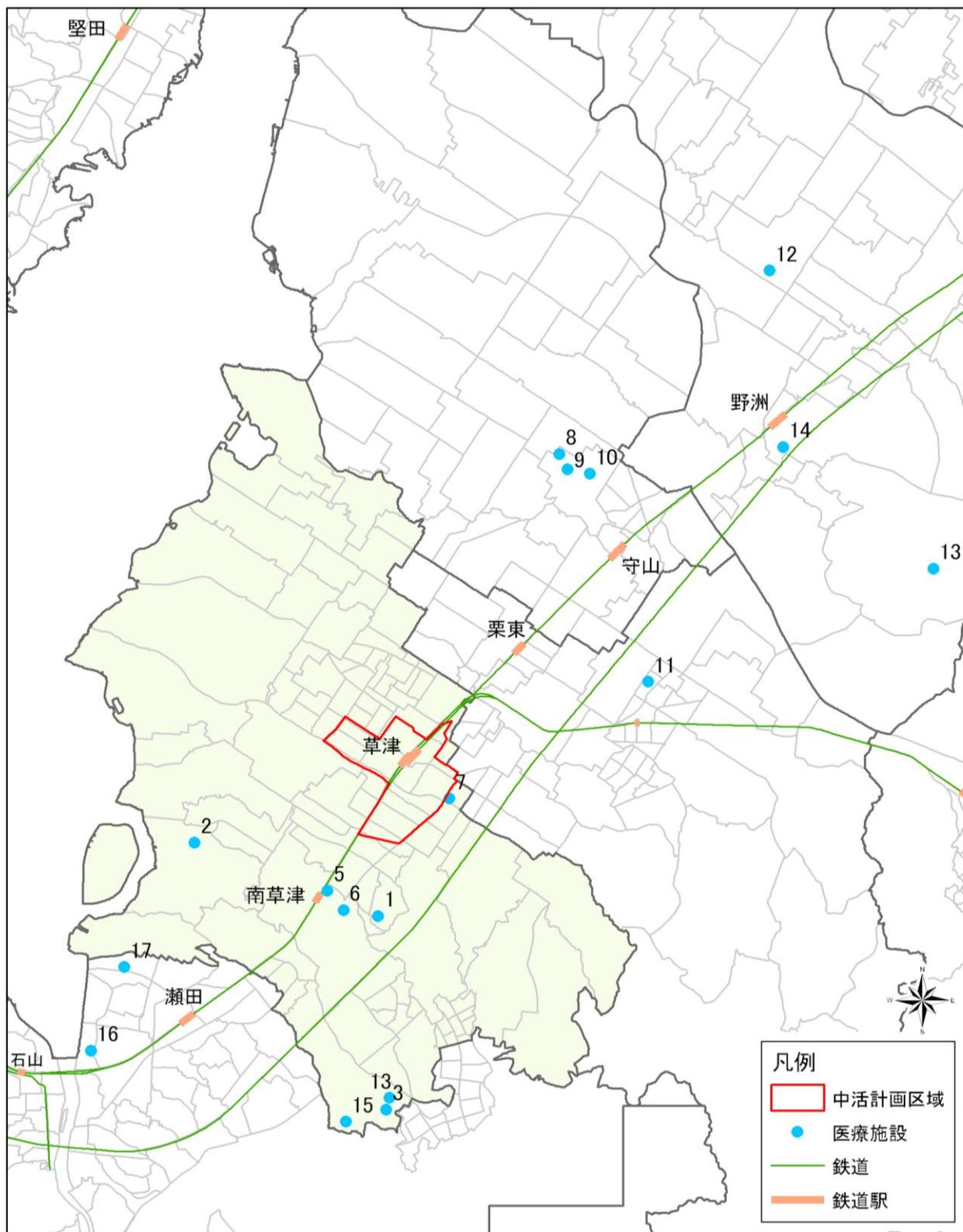
● 図 1-34 中心市街地内の医療施設の分布

NO.	名称	診療内容	NO.	名称	診療内容
1	医療法人上原眼科	眼科	24	やなぎはらクリニック	小児外科、小児科、外科
2	富田クリニック	内科	25	加藤乳腺クリニック	乳腺外科、外科、肛門科、形成外科、麻酔科、消化器科
3	やまみち耳鼻咽喉科	耳鼻いんこう科、アレルギー科	26	板谷耳鼻咽喉科	耳鼻いんこう科
4	内田内科循環器内科	内科、循環器内科	27	医療法人佐竹クリニック	内科、胃腸科
5	こばやし整形外科	整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科	28	木村診療所	皮膚科、泌尿器科、アレルギー科
6	草津レディースクリニック	産婦人科	29	中神内科クリニック	内科、循環器科、
7	西大路クリニック	内科、呼吸器科、循環器科	30	なかばやし小児歯科	小児歯科
8	耳鼻咽喉科岸本医院	耳鼻いんこう科、アレルギー科	31	草津いりえ歯科クリニック	歯科、小児歯科、口腔外科
9	たにむらこどもクリニック	小児科	32	おおくぼ歯科医院	歯科、小児歯科
10	尾松医院	泌尿器科、皮膚科、アレルギー科	33	加藤歯科医院	歯科、小児歯科
11	医療法人愛優会つかだ眼科クリニック	眼科	34	純歯科医院	歯科、小児歯科
12	津田皮フ科	皮膚科、形成外科	35	草津駅前デンタルクリニック	歯科
13	中野クリニック	泌尿器科、内科	36	つかだ歯科医院	歯科
14	医療法人九谷医院	内科、神経内科、循環器内科、消化器内科、耳鼻いんこう科、整形外科	37	金沢矯正歯科クリニック	矯正歯科
15	あらい眼科	眼科	38	林歯科医院	歯科
16	さいクリニック	精神科、心療内科	39	岡崎歯科医院	歯科
17	入江産婦人科	産科、婦人科、美容皮膚科	40	後藤歯科医院	歯科、小児歯科、矯正歯科
18	神吉医院	内科、循環器科、心臓血管外科、外科	41	有馬歯科クリニック	歯科
19	久徳医院	内科、循環器科、呼吸器科、消化器科、リハビリテーション科	42	久徳歯科	歯科、小児歯科
20	竹岡診療所	内科、皮膚科	43	南歯科クリニック	歯科
21	駒井眼科院	眼科	44	戸崎歯科	歯科、歯科口腔外科
22	井上医院	皮膚科、内科、アレルギー科	45	丸山歯科医院	歯科、小児歯科
23	ひつじクリニック	精神科、心療内科	46	医療法人むらお矯正歯科クリニック	矯正歯科

●表 1-4 中心市街地内の医療施設の概要

保険医療圏	NO.	医療機関名	病床数		
			計	一般	療養
湖南保健医療圏	1	近江草津徳洲会病院	199	155	44
	2	草津総合病院	719	569	150
	3	滋賀県精神医療センター	100	-	-
	4	びわこ学園医療福祉センター	116	116	-
	5	南草津野村病院	38	38	-
	6	南草津病院	137	42	95
	7	宮脇病院	51	51	-
	8	滋賀県立小児保健医療センター	100		
	9	滋賀県立成人病センター	541		
	10	守山市民病院	199		
	11	済生会滋賀県病院	393		
	12	湖南病院	120		
	13	びわこ学園医療福祉センター野洲	138		
	14	野洲病院	199		
大津保健医療圏 (瀬田川より 草津市側)	15	滋賀医科大学医学部附属病院	608		
	16	瀬田川病院	282		
	17	琵琶湖療育院病院	155		

●表 1-5 広域連携している医療施設の概要

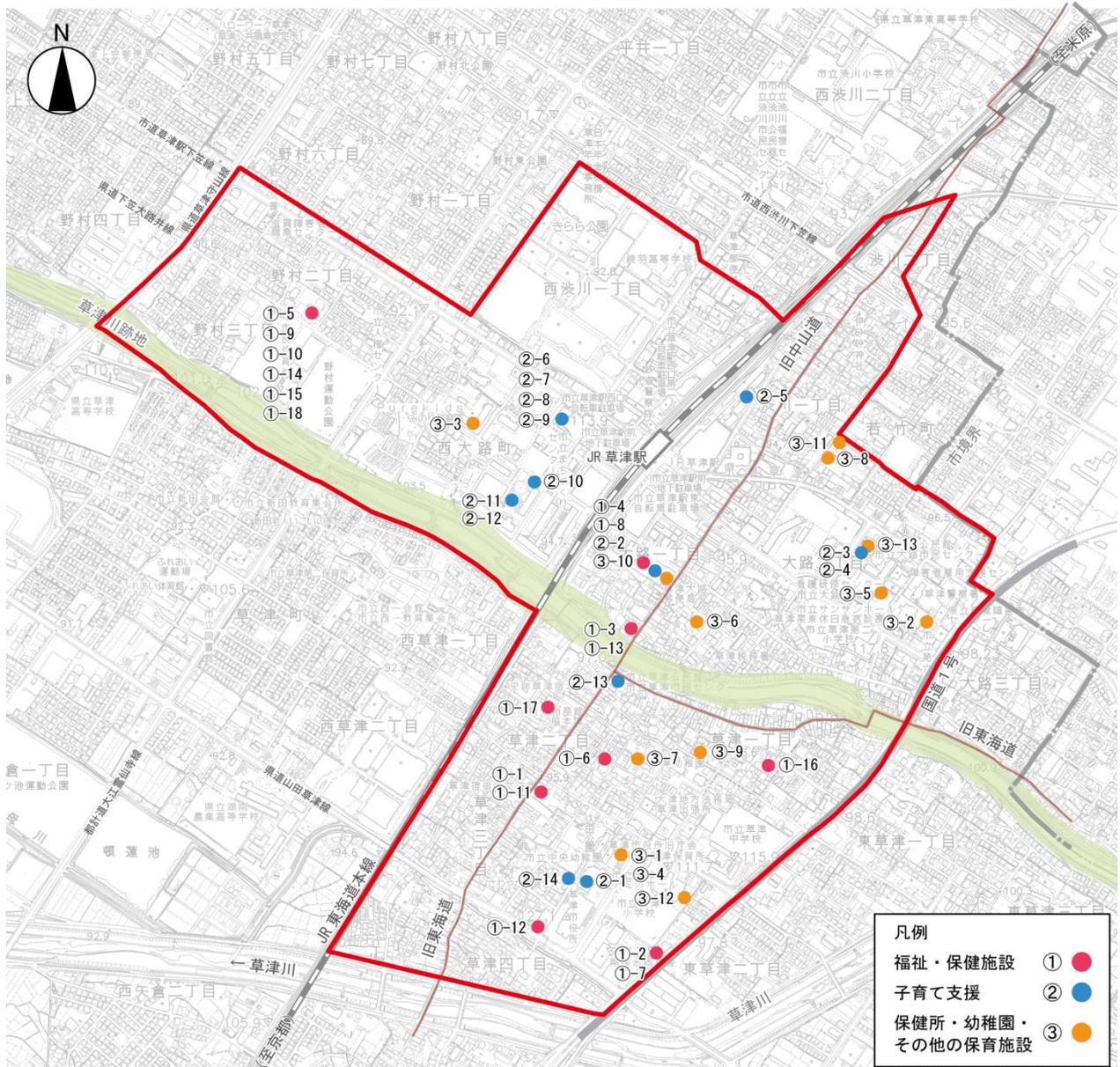


● 図 1-35 広域連携している医療施設の分布

◎子育て、高齢者福祉施設

子育て施設としては、子育てサークルなどの子育て支援施設の14か所、保育所や幼稚園などの保育施設の13か所が集積している。中心市街地の利便性を活かして、一時預かりを実施している保育施設も近年立地しており、今後も中心市街地内だけでなく、市内全域、また、JR草津駅利用者に利便性の高い子育て支援施設が望まれる。

高齢者福祉施設としては、居宅介護支援事務所や通所介護に関する施設など、中心市街地内に18か所が集積している。今後、ますます増加すると予想される高齢者のために、中心市街地内だけでなく、広域的な連携も必要になってくる。



● 図 1-36 福祉・保育系施設の分布

	no.	事業所名	施設内容
福祉・保健施設	① 1	りんく草津居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所
	① 2	メディケア湖南居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所
	① 3	あかねはうす草津居宅介護支援事業所	居宅介護支援事業所
	① 4	オフィス豆の木介護支援事務所	居宅介護支援事業所
	① 5	社会医療法人誠光会 指定居宅介護支援事業所きらら	居宅介護支援事業所
	① 6	特定非営利活動法人ディフェンス	居宅介護支援事業所
	① 7	メディケア訪問介護事業所	居宅介護支援事業所
	① 8	オフィス豆の木訪問介護事務所	居宅介護支援事業所
	① 9	社会医療法人誠光会 指定訪問介護事業所 草津ケアセンター 訪問介護ステーション	居宅介護支援事業所
	① 10	社会医療法人誠光会 訪問看護ステーション	訪問看護
	① 11	デイサービスりんく草津	通所介護
	① 12	リハビリデイサービスnagomi びわこ草津店	通所介護
	① 13	あかねはうす草津デイサービス	通所介護
	① 14	社会医療法人誠光会 介護老人保健施設 草津ケアセンター 通所リハビリテーション	通所リハビリテーション (デイケア)
	① 15	社会医療法人誠光会 介護老人保健施設 草津ケアセンター	短期入所療養介護 (ショートステイ)
	① 16	デイサービス てるてる元町	認知症対応型通所介護
	① 17	グループホーム オアフ	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)
	① 18	社会医療法人誠光会 介護老人保健施設 草津ケアセンター	介護老人保健施設 (老人保健施設)
子育て支援	② 1	子育て支援センター	子育て支援
	② 2	まめっこ	つどいの広場
	② 3	大ROUTE親子サロン	子育てサークル・サロン
	② 4	こいぬクラブ	子育てサークル・サロン
	② 5	おやこでトン・パツ!!トミック!	子育てサークル・サロン
	② 6	はな・はなる一む	子育てサークル・サロン
	② 7	子育て英語広場 Teddy Bear	子育てサークル・サロン
	② 8	親子でベビーマッサージ	子育てサークル・サロン
	② 9	みんなでファーストサイン	子育てサークル・サロン
	② 10	草津・栗東おやこ劇場おやこリズム	子育てサークル・サロン
	② 11	こいぬクラブ	子育てサークル・サロン
	② 12	さくらんぼ広場	子育てサークル・サロン
	② 13	すくすくさーくる	子育てサークル・サロン
	② 14	絵本の広場	子育てサークル・サロン
保育所・幼稚園・その他の保育施設	③ 1	草津保育所	保育所
	③ 2	第六保育所	保育所
	③ 3	Pure Kidsみのり保育園	保育所
	③ 4	中央幼稚園	幼稚園
	③ 5	大ROUTE幼稚園	幼稚園
	③ 6	信愛幼稚園	幼稚園
	③ 7	草津幼稚園	幼稚園
	③ 8	若竹幼稚園	幼稚園
	③ 9	草津カトリック幼稚園	幼稚園
	③ 10	KIDS 豆の木	その他の保育施設 一時預かり
	③ 11	キッズルーム たんぽぽ	その他の保育施設 一時預かり
	③ 12	のびっ子草津	児童育成クラブ
	③ 13	のびっ子大ROUTE	児童育成クラブ

●表 1-6 福祉・保育系施設の概要

(3) 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

1) 人口に関する状況

① 草津市の人口

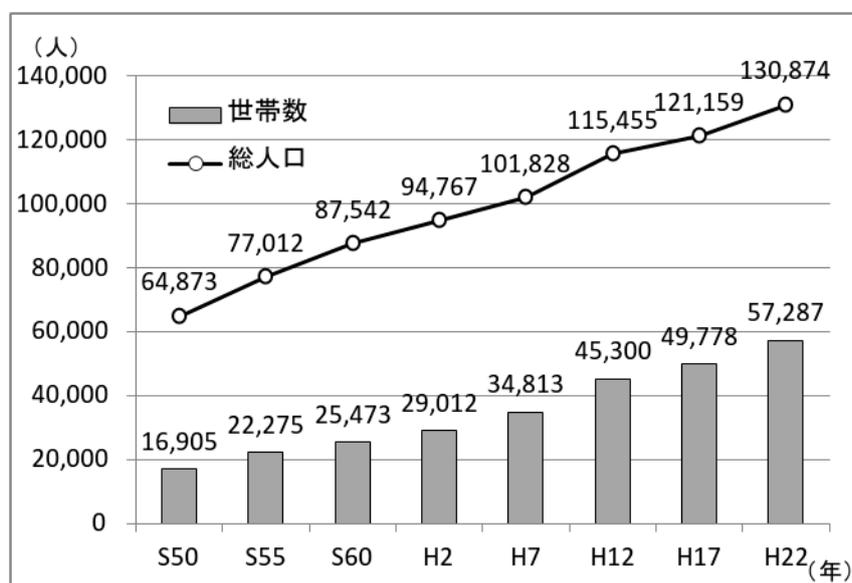
◎ 全国的にも珍しい人口増加の続くまち

草津市は、近年も人口増加を続けており、全国でも数少ない人口増加の自治体である。平成 22 年国勢調査で 130,874 人となっている。

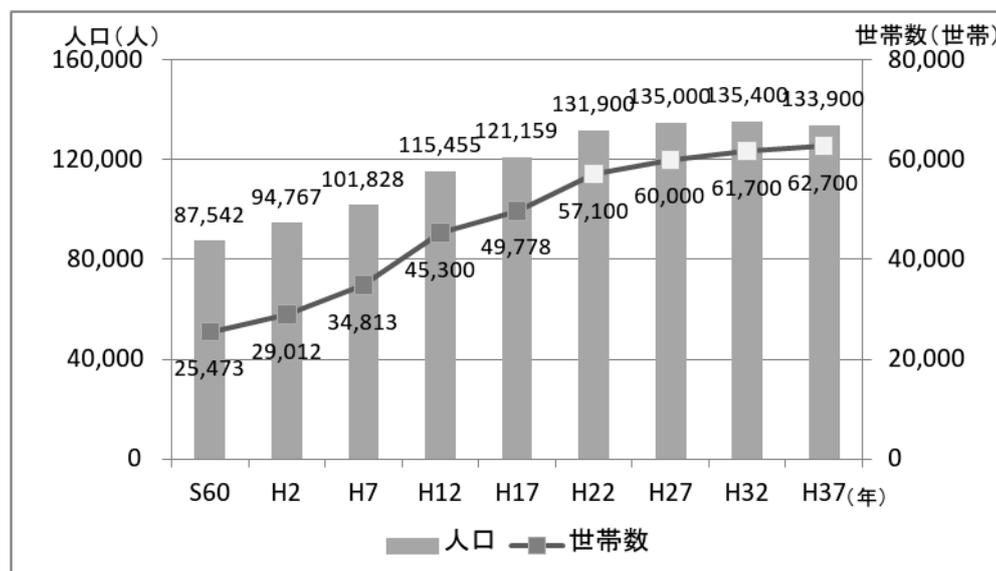
人口増加率は、平成 12 年から 22 年までの 10 年間で約 1.13 倍、平成 2 年から 22 年までの約 20 年間で約 1.38 倍に増加している。

草津市は、滋賀県下の市町村の中で、大津市に次ぎ、2 番目の人口規模にあるが、人口密度は大津市 (727.5 人/㎢) を大きく上回り 1926.9 人/㎢と、人口集積度の高いまちである。

今後の草津市の人口について、草津市の将来人口予測(第 5 次草津市総合計画基本構想)によると、平成 32 年の約 13.5 万人が最大となって、その後、人口減少に転じることが見込まれる。



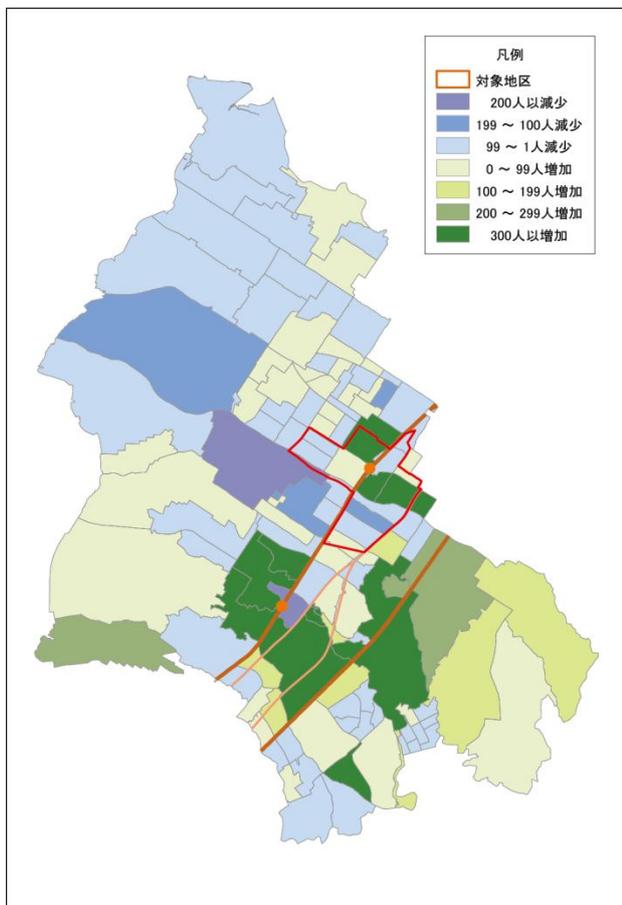
● 図 1-37 草津市の人口・世帯数の推移 (出典：各年国勢調査)



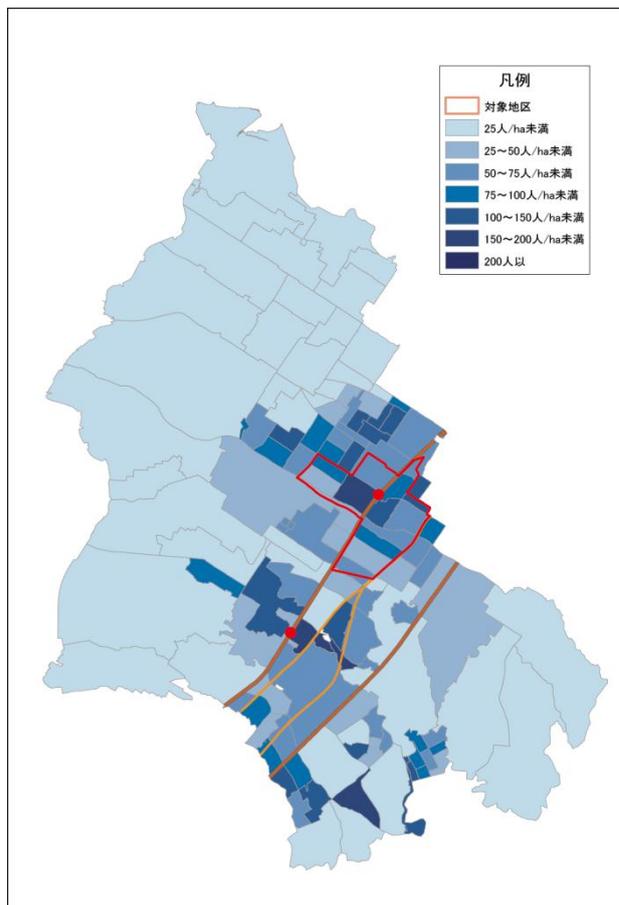
● 図 1-38 草津市の将来人口予測 (出典：第 5 次草津市総合計画基本構想)

具体的な人口増減（平成17年と22年国勢調査）では、JR草津駅とJR南草津駅の周辺、及び東海道新幹線沿いの郊外住宅開発地域で人口が増加している。一方、JR草津駅の北西地域と草津市の琵琶湖に面した北西地域と南側の一部丘陵地域で人口減少が著しい。

具体的な人口密度（平成22年国勢調査）では、JR草津駅とJR南草津駅の周辺、及びJR東海道線（琵琶湖線）沿いと東海道新幹線沿いとその間が特に高くなっている。また、JR草津駅の北西側と南西側の郊外住宅開発地域などで人口密度が高くなっている。



● 図 1-39 草津市の人口増減
（出典：平成17、22年国勢調査）



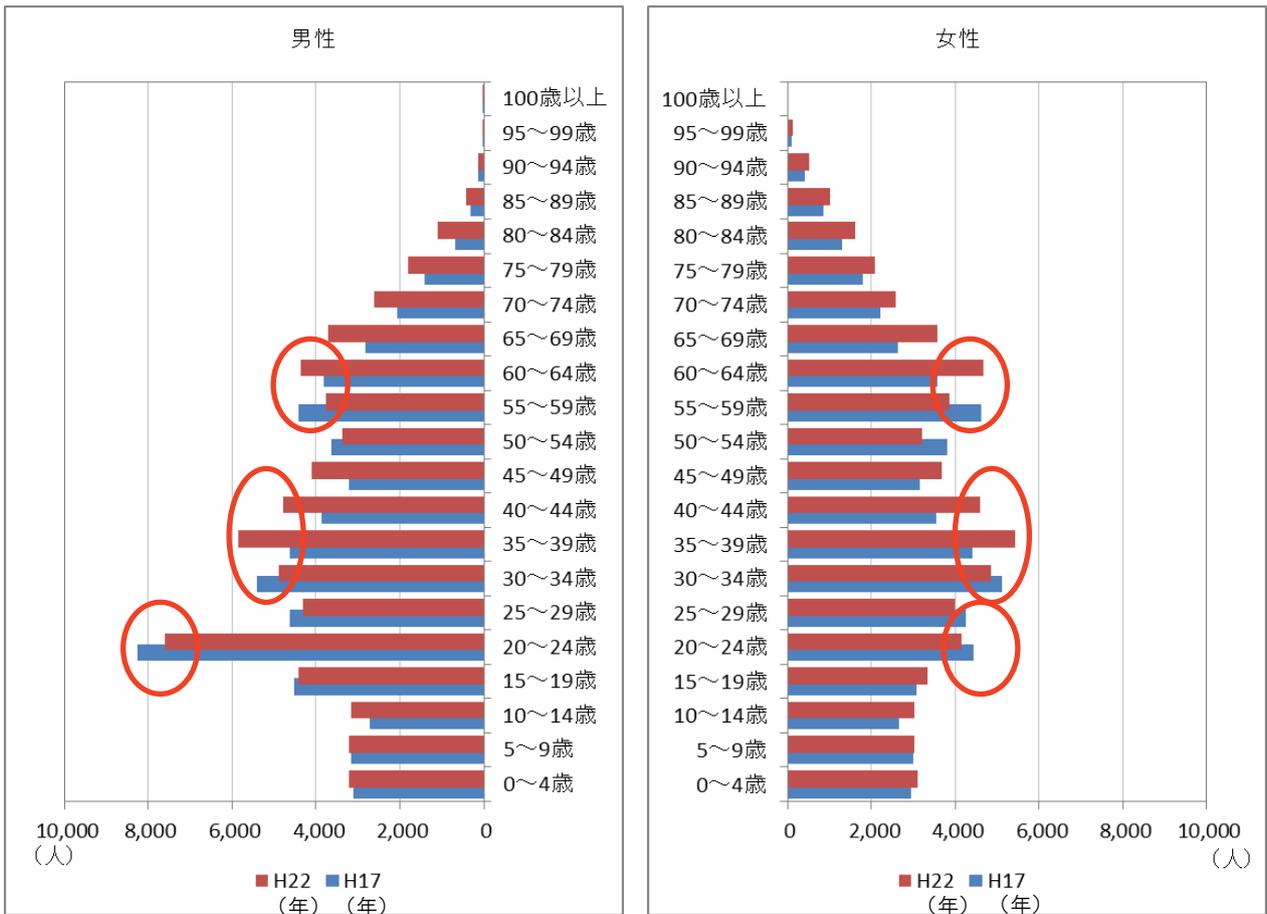
● 図 1-40 草津市の人口密度
（出典：平成22年国勢調査）

◎30、40歳代の人口が多く転入してくるまち

年齢階層別人口でみると、団塊の世代の人口が多く、今後、ますます、かつ、急速に高齢化が進むと考えられる。

また、30、40歳代の人口が多く、かつ、その世代の人口はこの5年間で増加していることから、30、40歳代が多く転入していることがわかる。この「30、40歳代の人口が多く、かつ、30、40歳代が多く転入している」ことは、他の自治体ではあまり見られないことから草津市の特徴的な人口構成といえる。

20歳代前半が多くなっているのは、平成6年に大学が立地し、大学生の居住が増えたためである。



● 図 1-41 草津市の年齢階層別人口の推移 (出典：各年国勢調査)

②草津市の昼間人口

◎流入人口が流出人口よりも多いまち

草津市は、自然豊かな京都・大阪都市圏のベッドタウンとしての特色があるとともに、市内に大学や大手企業等の工場が立地している。

このため、昼間人口の142,677人に対して、夜間人口は130,874人と昼間人口のほうが多く、昼間人口比率は109.0%となっており、流入人口が流出人口よりも多くなっている。

草津市との交流人口（流入人口）が最も多いのは、隣接する大津市（13,422人）であるが、京都府（6,567人）との交流人口も次に多くなっている。これは、鉄道や高速道路でのアクセスの良さが影響していると考えられる。

	昼間人口(人) (A)	夜間人口(人) (B)	昼夜間人口比率 (B/A)
滋賀県	1,363,302	1,410,777	96.6
草津市	142,677	130,874	109.0
大津市	310,912	337,634	92.1
近江八幡市	74,153	81,738	90.7
守山市	69,654	76,560	91.0
栗東市	64,183	63,655	100.8

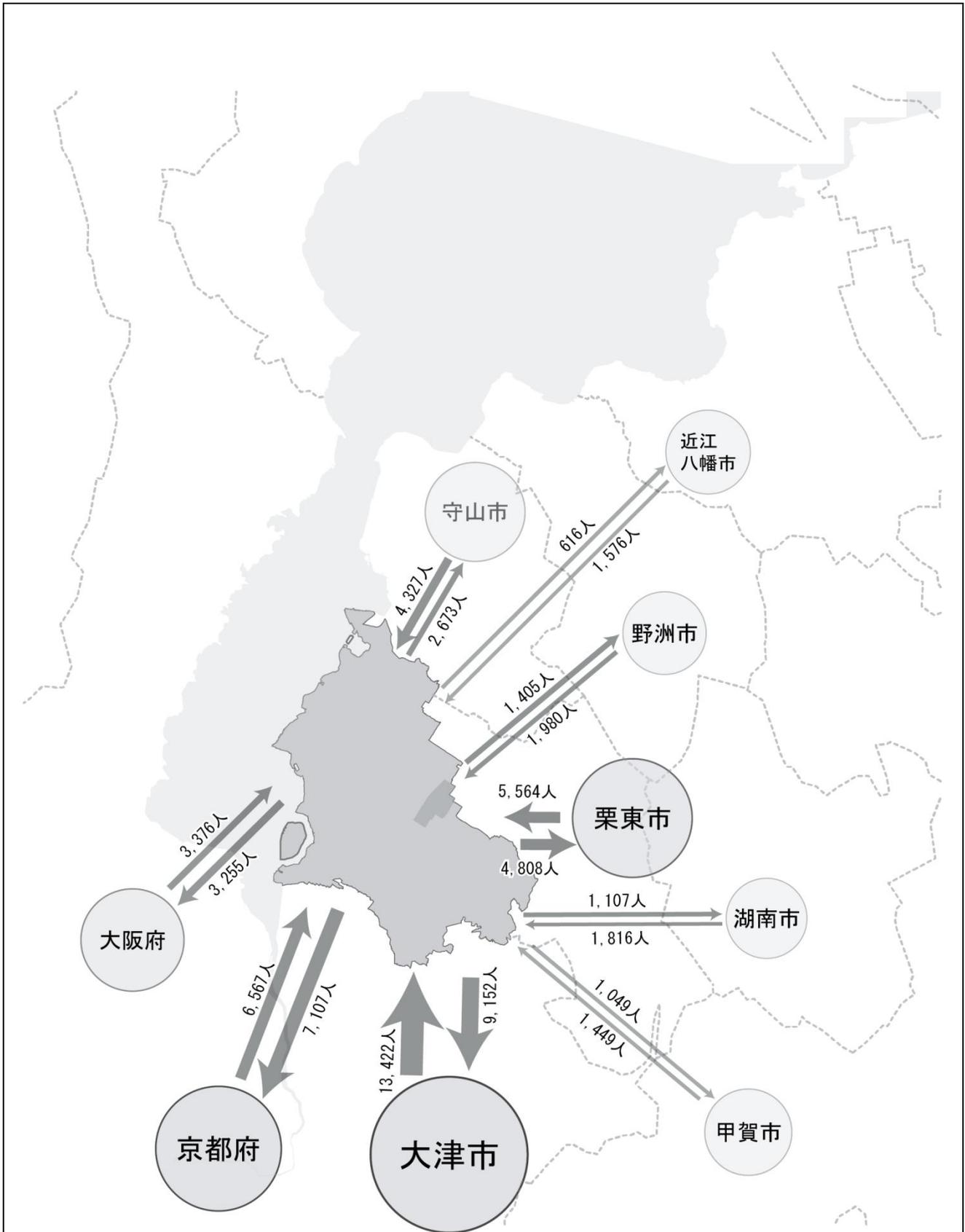
●表 1-7 草津市と周辺都市の昼夜間人口（出典：平成 22 年国勢調査）

	総数(人)	就業者(人)	通学者(人)
草津市で就業・通学する者	85,104	69,175	15,929
草津市に住み者	36,421	29,511	6,910
他市町村に住む者(流入人口)	45,437	36,977	8,460
大津市	13,422	11,978	1,444
近江八幡市	1,576	1,372	204
守山市	4,327	3,786	541
栗東市	5,564	5,033	531
甲賀市	1,449	1,175	274
野洲市	1,980	1,625	355
湖南市	1,816	1,571	245
京都府	6,567	4,800	1,767
大阪府	3,376	1,959	1,417

●表 1-8 草津市の流入人口（出典：平成 22 年国勢調査）

	総数(人)	就業者(人)	通学者(人)
草津市に常在する就業者・通学者	73,098	61,563	11,535
草津市で従業・通学する者	36,421	29,511	6,910
他市町村で従業・通学する者(流出人口)	34,745	30,464	4,281
大津市	9,152	7,793	1,359
近江八幡市	616	524	92
守山市	2,673	2,427	246
栗東市	4,808	4,571	237
甲賀市	1,049	1,016	33
野洲市	1,405	1,374	31
湖南市	1,107	1,063	44
京都府	7,107	5,777	1,330
大阪府	3,255	2,826	429

●表 1-9 草津市の流出人口（出典：平成 22 年国勢調査）



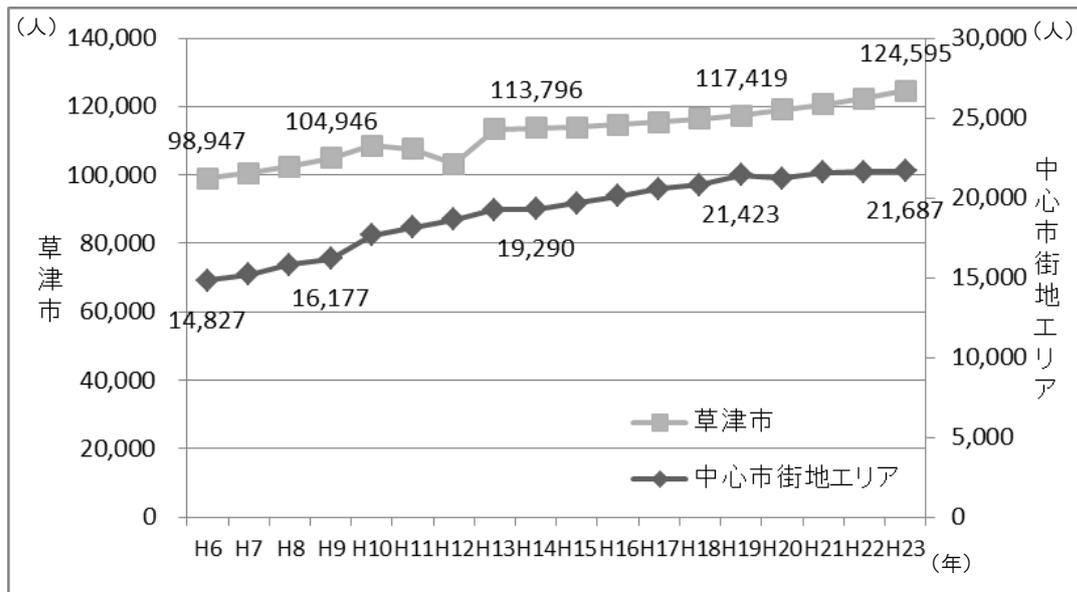
● 図 1-42 草津市の流出入人口（出典：平成 22 年国勢調査）

③ 中心市街地の人口

◎ 中心市街地の人口は増加

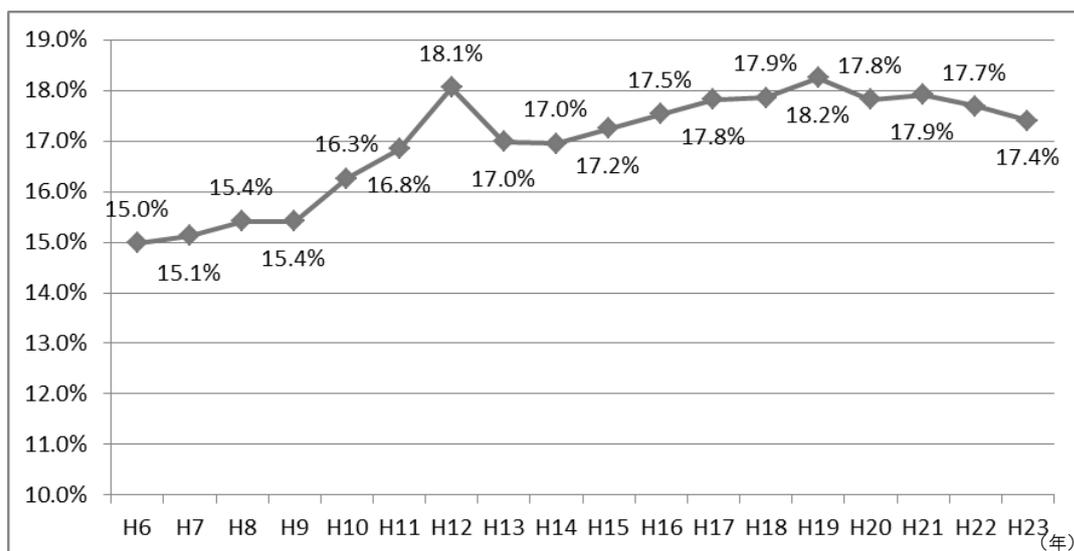
中心市街地区域の人口が増加しているのに対し、区域内の人口と草津市の人口に対するシェア率はほぼ横ばいで推移している。そのことから草津市全体の人口が増加しており、中心市街地のみに人口が集中していないことがわかる。

平成 23 年の中心市街地における人口は、草津市全体の人口の約 17.4% を占めている。平成 14 年から 23 年までの約 10 年間でも、ほぼ 17% 台を推移している。



● 図 1-43 草津市と中心市街地の人口推移

(出典：各年草津市統計書 (各年 10 月 1 日時点の総人口))



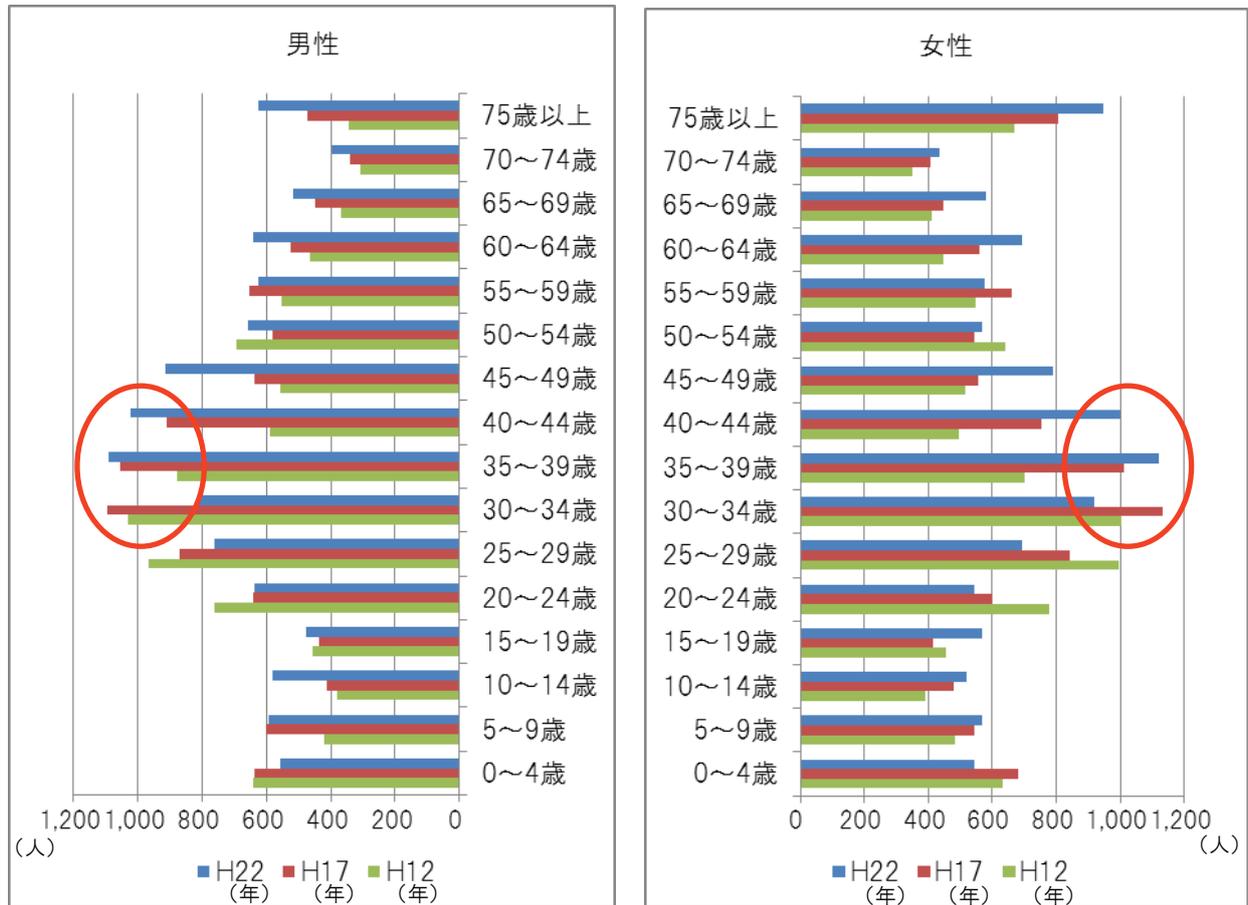
● 図 1-44 中心市街地の人口が草津市の人口に占める割合

(出典：各年草津市統計書 (各年 10 月 1 日時点の総人口))

◎若い世代の高層マンションへの転入が多い

年齢階層別人口をみると、30歳代、40歳代の人口が多く、かつ、その世代の人口はこの10年間で増加していることから、30歳代、40歳代が中心市街地内に転入していることがわかる。これは、中心市街地内の高層（大規模）マンションにその世代が転入してきていると推測される。

また、平成12年と17年の20歳代の人口も多かったが、しかし平成22年には減っている。これは市内に大学が立地していることに関連していると考えられる。

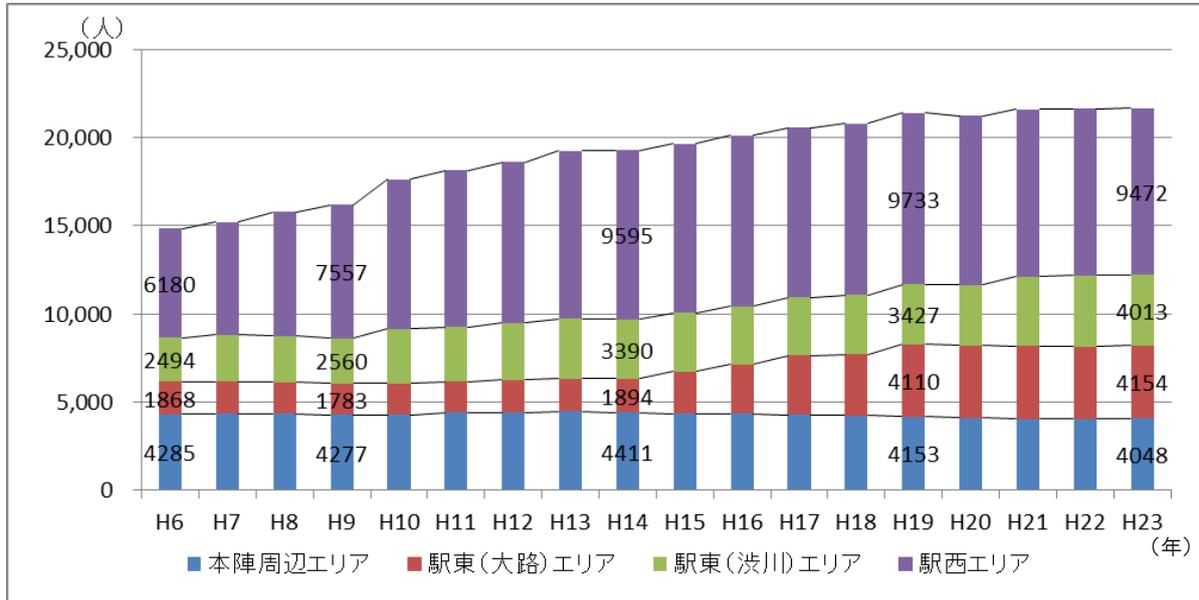


● 図 1-45 中心市街地の年齢階層別人口の推移 (出典：各年国勢調査)

④ 中心市街地のエリア別人口

◎ 高層マンションによる人口増加と古くからのまちでの人口減少

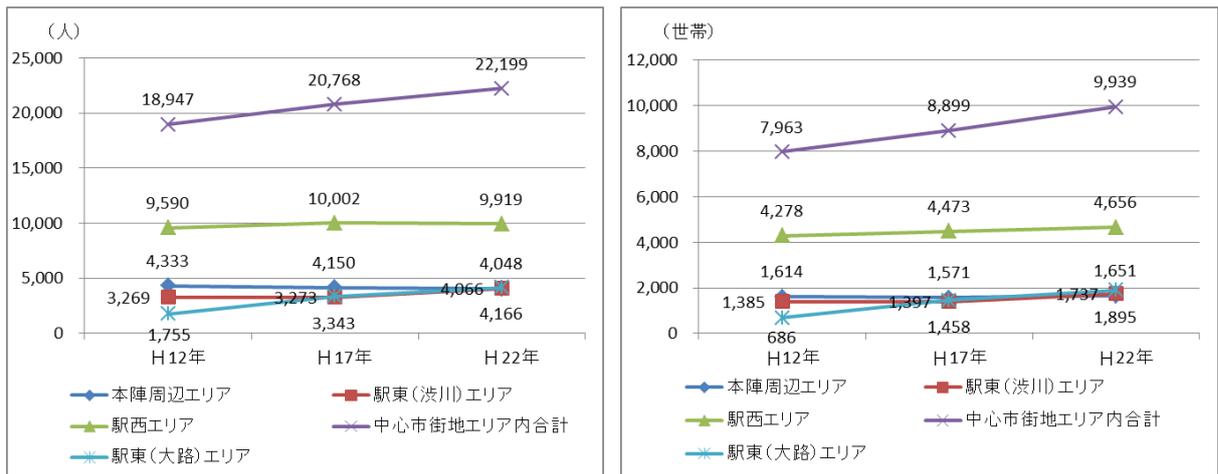
ほとんどのエリアで人口が増加傾向にあり、中でも高層（大規模）マンションが建設された駅前（大路）エリアでは平成12年～22年の11年間で約2.4倍に増加している。一方、古くからの住宅地である本陣周辺エリアでは減少している。全体ではこの約20年間で人口、世帯数いずれも約1.2倍に増加している。



本陣周辺エリア：草津1～4丁目
 駅前（大路）エリア：大路1、2丁目
 駅前（渋川）エリア：渋川1、2丁目、若竹町
 駅西エリア：西渋川1丁目、西大路町、野村1～3、6丁目

● 図1-46 中心市街地のエリア別人口の推移

(出典：各年草津市統計書（各年10月1日時点の総人口）)



● 図1-47 中心市街地のエリア別人口・世帯数の推移 (出典：各年国勢調査)

人口	平成12年	平成17年	平成22年	世帯数	平成12年	平成17年	平成22年
本陣周辺エリア	4,333	4,150	4,048	本陣周辺エリア	1,614	1,571	1,651
駅前(大路)エリア	1,755	3,343	4,166	駅前(大路)エリア	686	1,458	1,895
駅前(渋川)エリア	3,269	3,273	4,066	駅前(渋川)エリア	1,385	1,397	1,737
駅西エリア	9,590	10,002	9,919	駅西エリア	4,278	4,473	4,656
中心市街地エリア内合計	18,947	20,768	22,199	中心市街地エリア内合計	7,963	8,899	9,939

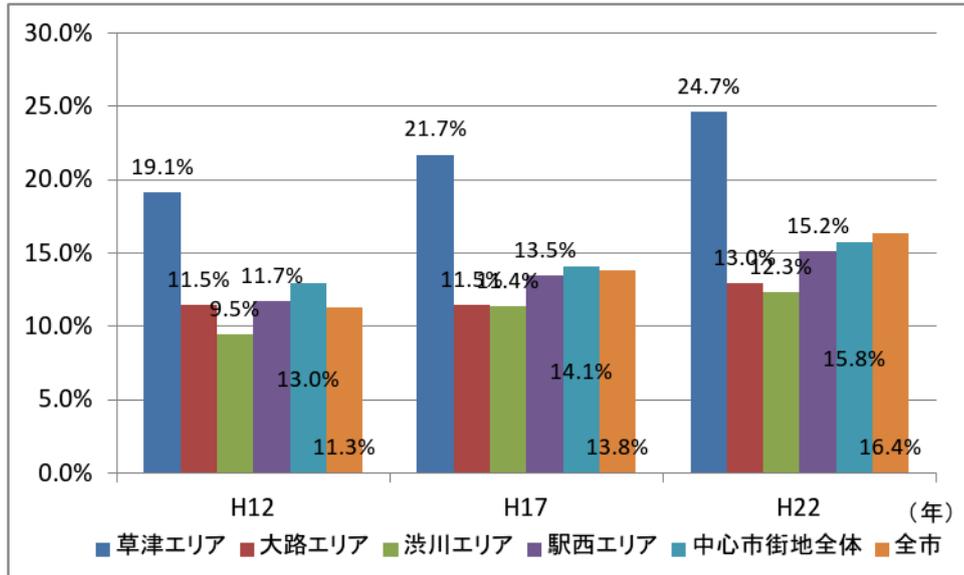
● 表1-10 中心市街地のエリア別人口・世帯数 (出典：各年国勢調査)

⑤ 中心市街地の高齢化率

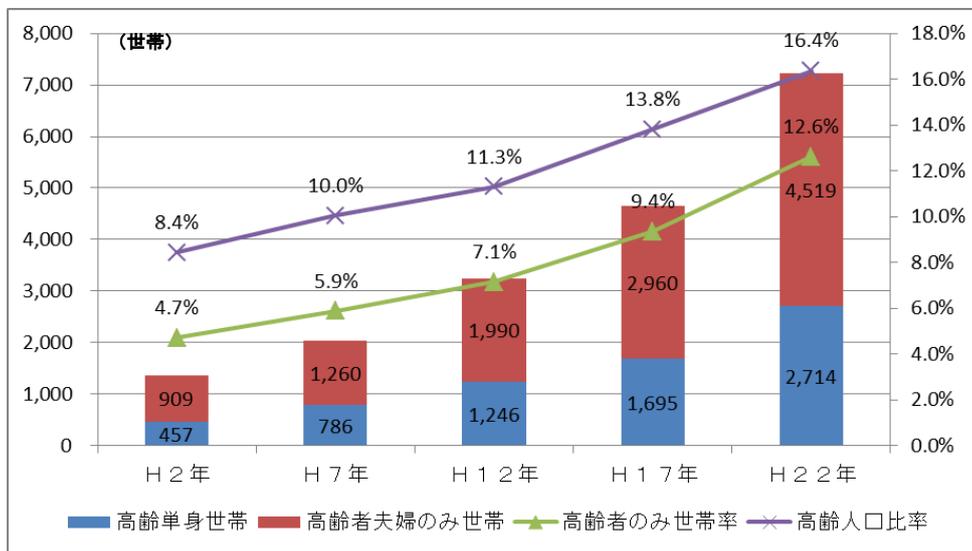
◎ 平成 22 年の高齢化率は市全体が高く、平成 17 年までの高齢化率は中心市街地が高かった

草津市全体と中心市街地内の高齢化率は、平成 12 年～22 年の 11 年で 11.3%から 16.4%と 13.0%から 15.8%の高い割合で推移した。平成 17 年までの高齢化率は市全体よりも中心市街地が高かったが、平成 22 年の高齢化率は中心市街地よりも市全体が高くなっている。

また、草津市全体では、高齢単身世帯や高齢者夫婦のみの世帯等、高齢者のみで構成されている世帯も急増しており、中心市街地内でも同じような現象が起こっていると予想される。



● 図 1-48 中心市街地と草津市の高齢化率の推移の比較（出典：各年国勢調査）



● 図 1-49 草津市の高齢化率と世帯員に高齢者が含まれる世帯数（出典：各年国勢調査）

	高齢単身世帯	高齢者夫婦のみ世帯	高齢者のみ世帯率	高齢人口比率
H 2 年	457 世帯	909 世帯	4.7%	8.4%
H 7 年	786 世帯	1,260 世帯	5.9%	10.0%
H 1 2 年	1,246 世帯	1,990 世帯	7.1%	11.3%
H 1 7 年	1,695 世帯	2,960 世帯	9.4%	13.8%
H 2 2 年	2,714 世帯	4,519 世帯	12.6%	16.4%

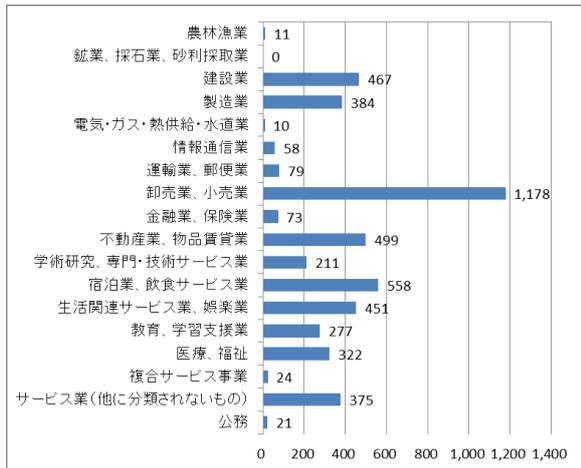
● 表 1-11 草津市の世帯員に高齢者が含まれる世帯数（出典：各年国勢調査）

2) 産業に関する状況

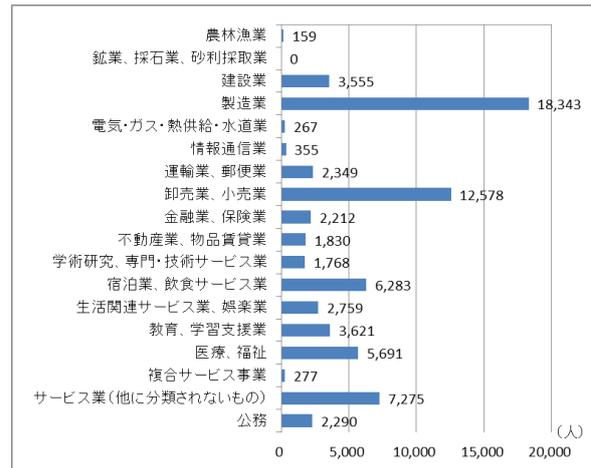
①草津市の産業

◎市内には国内有数の大手企業が立地

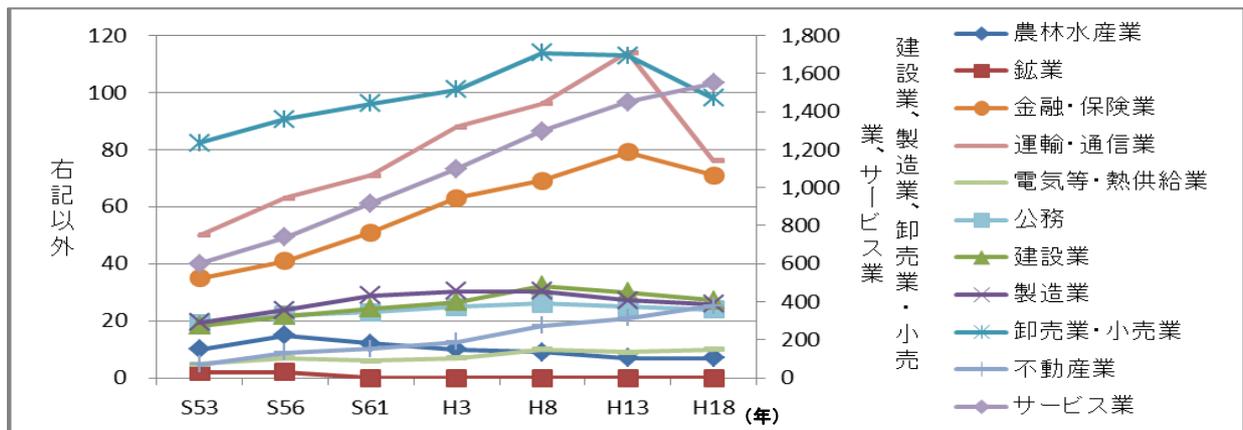
草津市の産業は事業所数で見ると、「卸売業・小売業」が1,178か所で最も多いが、従業員数で見ると「製造業」が18,343人で最も多い。これは、広域交通の利便性の高さから、オムロン、パナソニックなど国内有数の大手企業が立地していることによる。(平成21年は企業統計調査から経済センサスに調査分類が変更になった。)



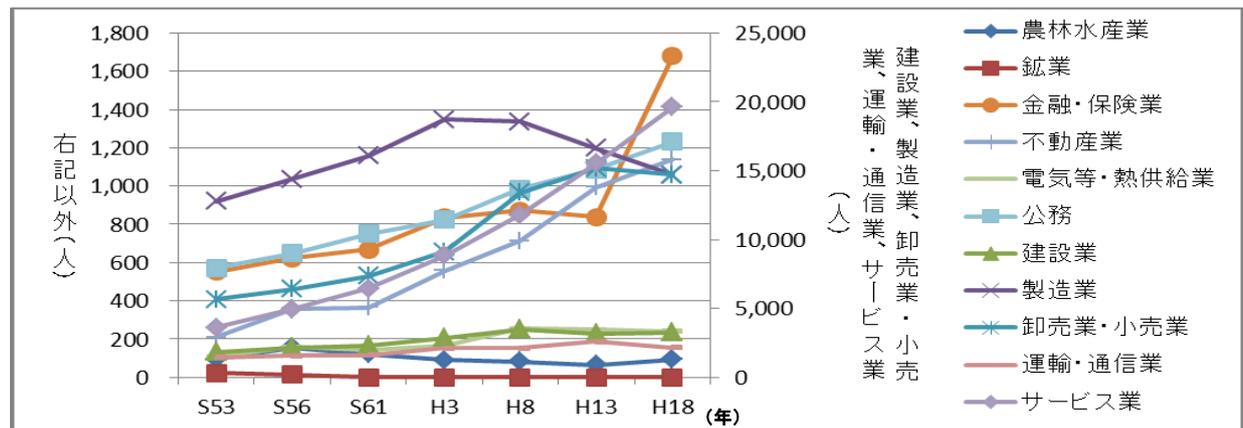
● 図 1-50 H21 草津市内の産業別事業所数 (出典：平成21年経済センサス)



● 図 1-51 H21 草津市内の産業別従業員数 (出典：平成21年経済センサス)



● 図 1-52 草津市内の事業所数の推移 (出典：各年事業所・企業統計調査)

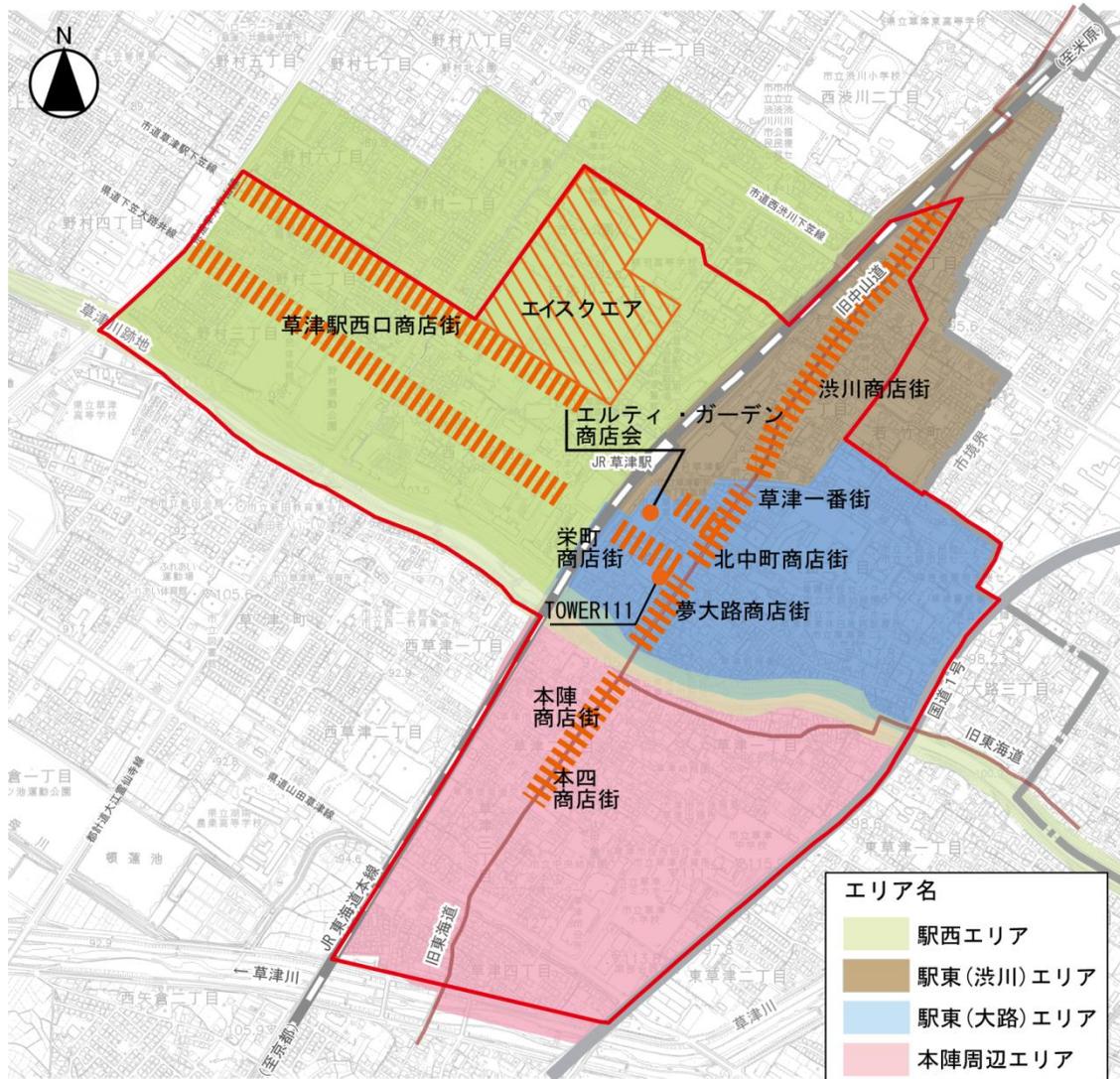


● 図 1-53 草津市内の従業員数の推移 (出典：各年事業所・企業統計調査)

② 中心市街地の商店街の小売商業の推移

◎ JR草津駅を中心に 10 以上の商店街が立地

中心市街地内の商店街は、JR 草津駅を中心に形成されており、駅西エリアに「草津駅西口商店街」、「エイクエア」、駅東（渋川）エリアに「渋川商店街」、駅東（大路）エリアに「草津一番街」、「北中町商店街」、「夢大路商店街」、「栄町商店街」、「エルティ・ガーデン商店会」、「Tower111」、本陣周辺エリアに「本陣商店街」、「本四商店街」がある。



● 図 1-54 中心市街地計画区域内の商店街の立地

エリア名	エリア内の商店街
駅西エリア	草津駅西口商店街、エイクエア（草津駅西口商店街加盟店）
駅東（渋川）エリア	渋川商店街
駅東（大路）エリア	草津一番街商店会、北中町商店街、夢大路商店街、栄町商店街、エルティ・ガーデン商店会、Tower111 商店会
本陣周辺エリア	本陣商店街、本四商店街

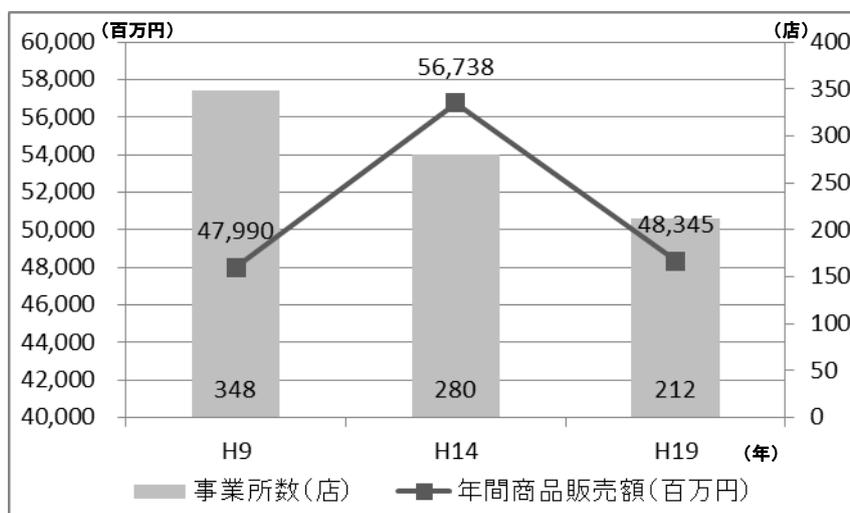
◎商店街の売り上げは減少、大型店では平成14年がピーク

中心市街地内の商店街の事業所数は平成9～19年の11年間で約6割にまで落ち込んでおり、年間商品販売額も減少傾向である。中心市街地全体として平成9年～14年は増加しているが、(平成9年に近鉄百貨店草津店が、平成11年にエイスクエア・ノース(ディオワールド草津店)が開業)、平成14年～19年は減少している。

中心市街地内の各団体の事業所数と年間商品販売額は増えているところもあるが、平成9～19年の約10年間では減少しているところが少なくない。

	事業所数(店)			年間商品販売額(百万円)		
	H9	H14	H19	H9	H14	H19
駅前エリア						
	23	21	17	1,026	15,625	14,062
	34	4	10	6,703	272	649
	21	31	23	3,426	6,243	4,367
	5	5	5	301	243	114
	54	45	23	2,367	1,749	711
	11	-	-	747	-	-
	19	-	-	582	-	-
	24	-	-	1,038	-	-
	43	34	14	5,549	3,075	411
	20	-	6	4,626	-	178
	20	-	-	4,626	-	-
	200	140	98	23,998	27,207	20,492
本陣周辺エリア						
	51	37	28	1,440	712	922
	6	-	-	353	-	-
	10	-	-	575	-	-
	20	-	-	288	-	-
	15	-	-	224	-	-
	12	13	10	237	184	150
	13	11	10	344	133	113
	76	61	48	2,021	1,029	1,185
駅西エリア						
	28	30	16	2,353	1,311	918
	44	49	50	19,618	27,191	25,750
	72	79	66	21,971	28,502	26,668
	348	280	212	47,990	56,738	48,345

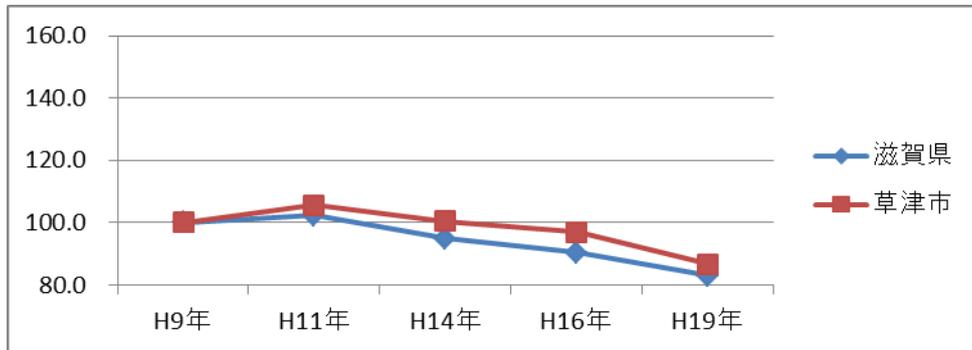
●表 1-12 中心市街地内の各団体の事業所数と年間商品販売額 (出典：各年商業統計調査)



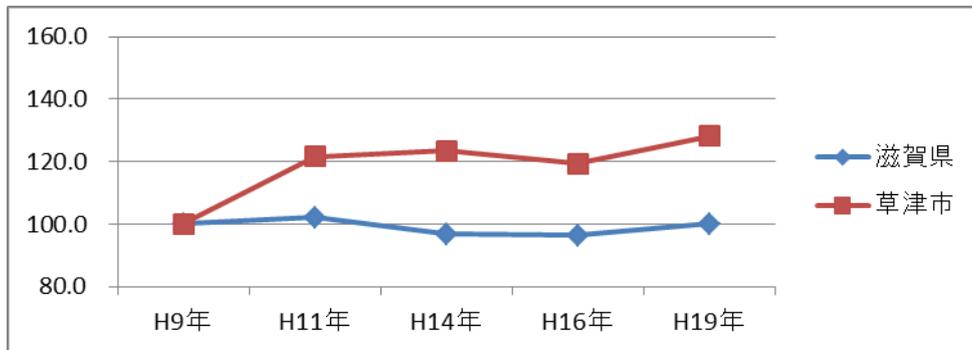
●図 1-55 中心市街地内の商店街の事業所数と年間商品販売額の推移 (出典：各年商業統計調査)

参考：滋賀県と草津市の商業関係データ（平成9年を100とした場合の推移）

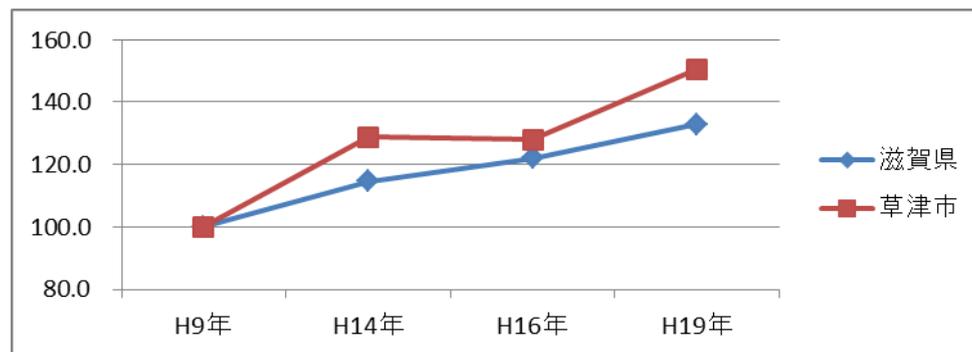
草津市の小売業店舗数は、平成9年～19年で滋賀県全体と同様に減少傾向である。しかし、草津市の年間商品販売額は滋賀県全体とは異なり、草津市では増加していることから、草津市での消費活動は活発になっていることがわかる。また、滋賀県、草津市ともに店舗数は減少しているが、売り場面積が増加し、小売業の従業員数が増加していることから、大型小売店舗の出店が進んでいることがわかる。



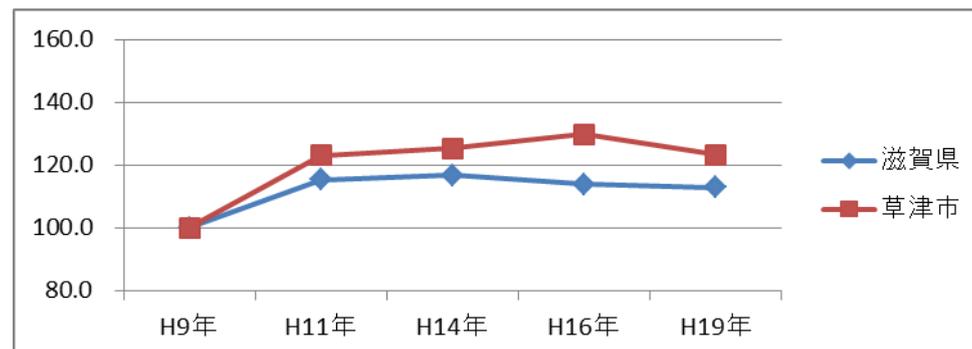
● 図 1-56 小売業の店舗数の推移



● 図 1-57 小売業の年間商品販売額の推移



● 図 1-58 小売業の売り場面積の推移



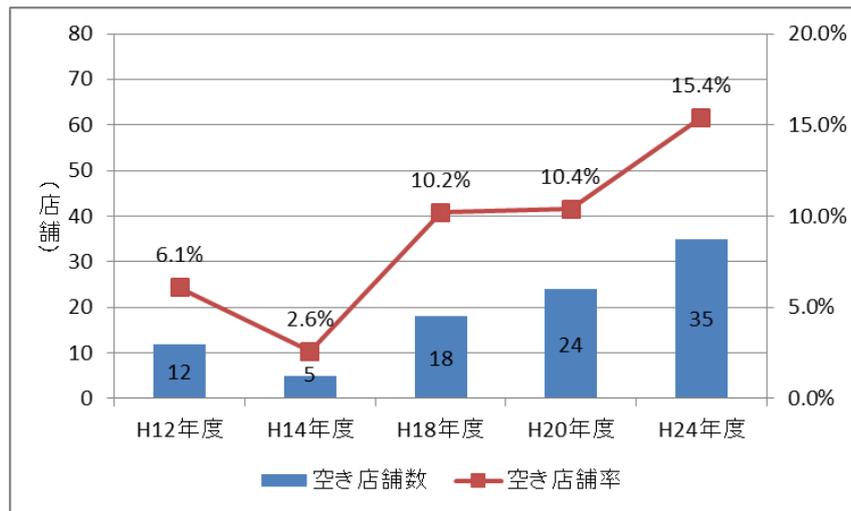
● 図 1-59 小売業の従業員数の推移

③空き店舗の状況

◎空き店舗は増加

中心市街地内の 20 店舗以上が道路に隣接し、商店街区域を形成している商店街（本四商店街、本陣商店街、夢大路商店街、北中町商店街、草津一番街商店街）についての空き店舗調査によると、空き店舗数も空き店舗率も増加している。しかし、飲食店や全国展開チェーン店等の出店はところどころで見られる。

古くからの商店街では、店舗と住居が一体になっており、店舗としての利用はなされなくなっているが、住居として利用されている場合が多く見られる。



※上図の調査対象商店街：本四、本陣、夢大路、北中町、草津一番街
(20 店舗以上が道路に隣接し、商店街区域を形成している商店街)

● 図 1-60 空き店舗数、空き店舗率の推移

■空き店舗の状況（草津市まちなか再生課の調査）

平成 24 年度に本市で以下のような空き店舗の調査を実施した。

調査基準日：平成 24 年 9 月現在

調査対象：JR 草津駅を中心とした草津市中心市街地活性化基本計画区域内

調査方法：現地における目視調査

調査項目：空き店舗数、営業店舗数

※店舗数については、テナントビル等で区画割数の変更等や、所有者の店舗経営若しくは貸付の意思によって変わるため、あくまで参考値(空き店舗状況の傾向)として取り扱う。

また、この調査では、営業店舗、空き店舗を次のように定義している。

「営業店舗」

・現に営業している小売業、飲食業、サービス業等の店舗（消費者が商品やサービス等の購入ができる場所）

例：百貨店、総合スーパー、大型ディスカウント店等の大規模小売店舗、衣料、食品、日用品、薬店、コンビニ等の小売店舗、飲食店、病院、金融機関、理美容、クリーニング、レンタルショップ、遊技場、有料駐輪場、塾等のサービス店等

- ・大規模小売店舗については、1店舗としてカウントしている。
- ・「小売業、飲食業、サービス業等の店舗」ではない事務所は除いている。

「空き店舗」

- ・従前店舗として利用された建物で、廃業、移転等により現在は空きスペースとなっているもの。利用者が現れるまでの間、暫定的に車庫、物置等として使用しているものも含めている。
- ・テナントビル等のテナント待ちの状態店舗として活用できるもの。
- ・ただし、建物が撤去され、駐車場や空き地、住宅等になった場合は除いている。

中心市街地全体における空き店舗の状況は、その多くが草津駅東側に点在している。全体の店舗数は724軒、そのうち営業店舗数は649軒、空き店舗数は75軒、空き店舗率は約10%である。(なお、調査店舗数については、テナントビル等で区画割数の変更等により、店舗数が変わるため、あくまで参考値とする。)

また、中心市街地の区域を、本陣周辺エリア、駅東(大路・渋川)エリア、駅西エリアの3つに分けると、以下のような結果となった。

ア. 本陣周辺エリア

- ・本陣周辺エリアにおいて、旧東海道沿いを中心として特に空き店舗数の増加が顕著である。
- ・本陣周辺エリア全体の店舗数は150軒、そのうち営業店舗数は126軒、空き店舗数は24軒、空き店舗率は約16%である。

イ. 駅東(大路・渋川)エリア

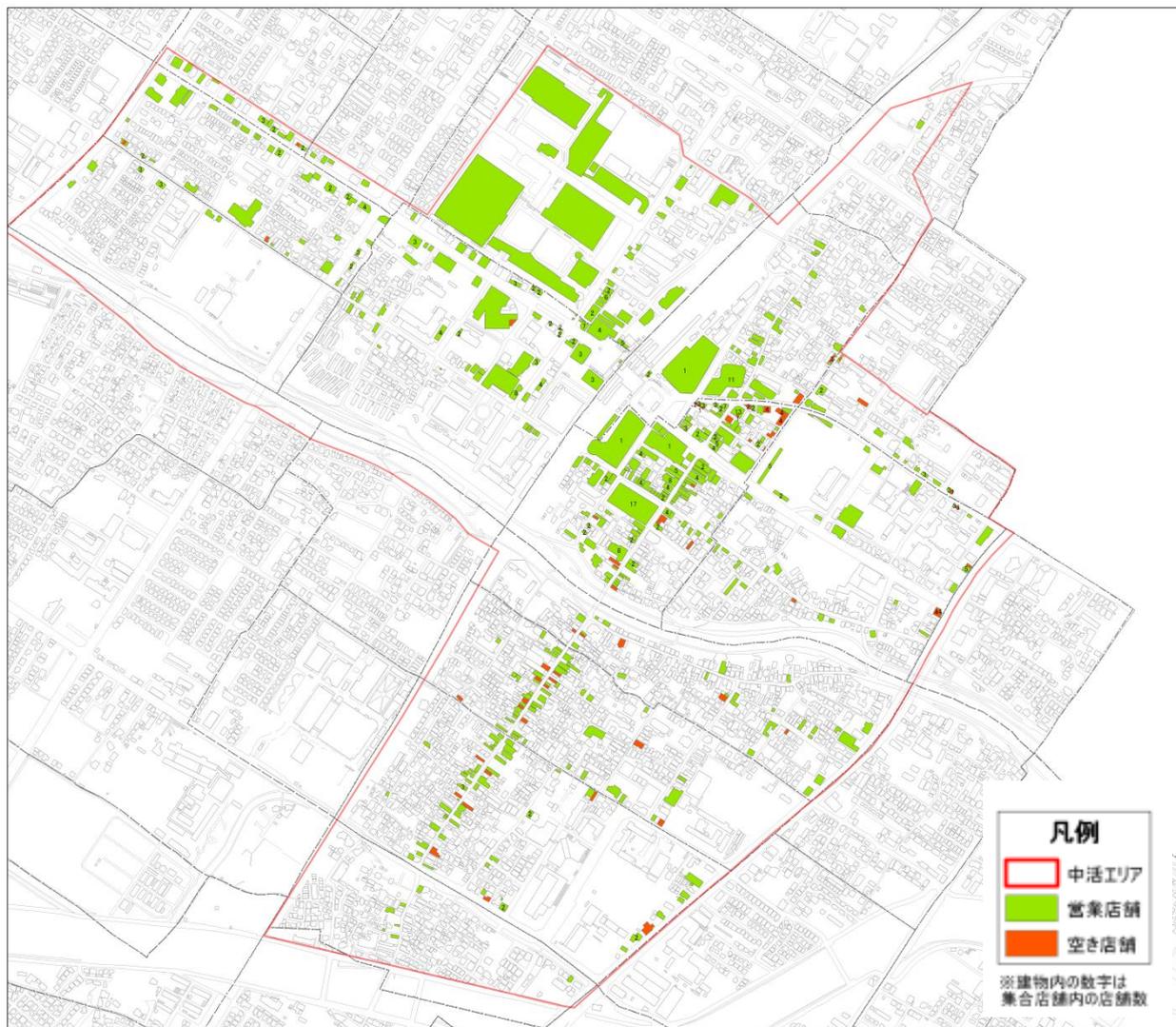
- ・駅東(大路・渋川)エリアにおいては、空き店舗が点在している。
- ・特に西友跡地の北西側のブロックには、空き店舗が集まっている。
- ・駅東(大路・渋川)エリア全体の店舗数は368軒、そのうち営業店舗数は321軒、空き店舗数は47軒、空き店舗率は約13%である。

ウ. 駅西エリア

- ・駅西エリアにおいては、空き店舗がほとんどない。しかし、駅から離れたところに3軒の空き店舗が点在する。
- ・駅西エリア全体の店舗数は206軒、そのうち営業店舗数は202軒、空き店舗数は4軒、空き店舗率は約2%である。



●図1-61 中心市街地内の空き店舗



●図 1-62 中心市街地内の空き店舗の分布

H24. 9

	全店舗数	営業店舗数	空き店舗数	空き店舗率
駅西エリア	206	202	4	1.9%
駅東エリア	368	321	47	12.8%
本陣周辺エリア	150	126	24	16.0%
エリア合計	724	649	75	10.4%

※大規模店舗は1店舗としてカウントしている。

●表 1-13 中心市街地内の空き店舗数、空き店舗率

④歩行者通行量（草津市まちなか再生課の調査）

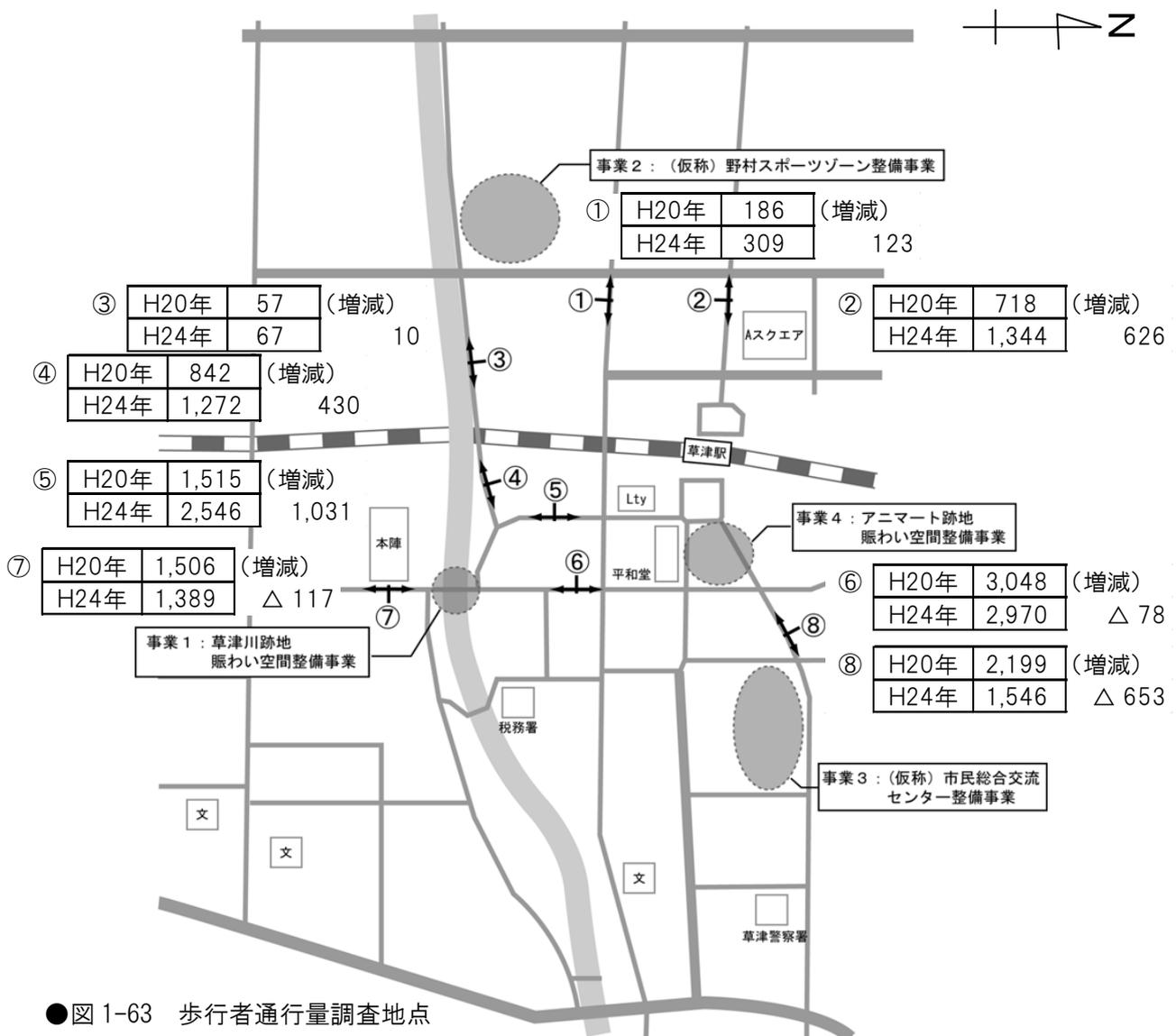
◎古くからの住宅地、商店街で歩行者通行量が減少

平成14年から平成20年には、隔年で8月第一水曜日の10:00~20:00（連続10時間）で商工会議所による交通量調査が実施されている。また、平成24年には、8月29日（最終水曜日）の8:00~20:00（連続12時間）で草津市まちなか再生課が独自で調査を行った。

平成20年から平成24年の推移（10:00~20:00）をみると、⑥、⑦、⑧の駅東側で歩行者通行量が減少している。⑥、⑦の地域では、古くからの住宅地、商店街があり、昔はにぎわいのあった場所であるが、人口数や事業所数、店舗数、従業員数の減少とともに、南草津駅の新快速停車によって、矢倉や本六周辺の人の流れが変わったことにも影響され、歩行者数が減少し、にぎわいが低下したことが挙げられる。⑧の地域では、店舗数や事業所数、従業員数の減少などにより、歩行者数が減少したことが要因として挙げられる。

一方、①、②の駅西側では歩行者通行量が増加している。この地域では、人口数や事業所数、店舗数、従業員数の増加したことが要因として挙げられる。

④、⑤については、平成20年から平成24年の歩行者通行量が増加している。その要因として、JR草津駅からこの経路を通り通勤している大規模事業所の従業員数の変化が大きく影響していることが挙げられる。

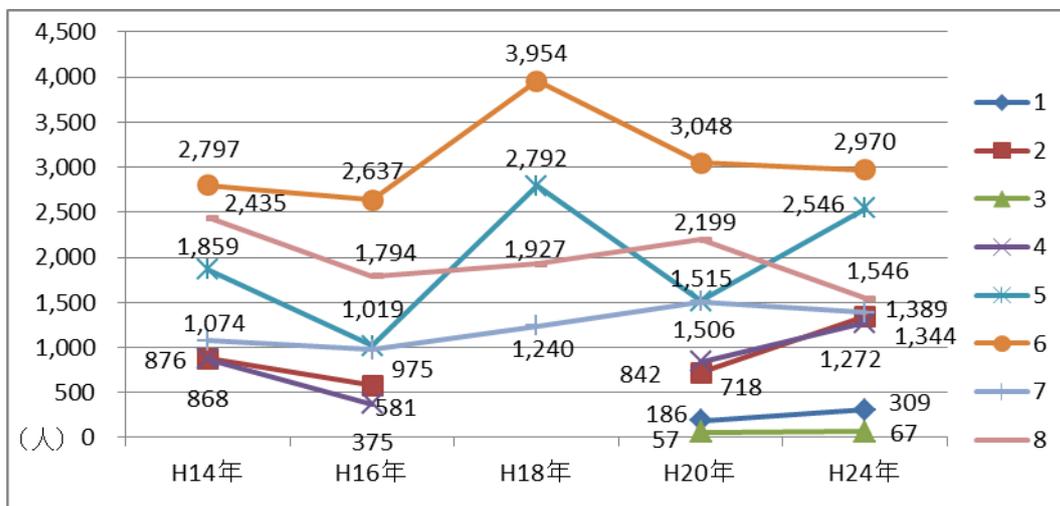


NO.	(行)方向	(行)方向	10時間合計	
1	H14年 (東)	-	(西) -	
	H16年	-	-	
	H18年	-	-	
	H20年	106	80	186
	H24年	156	153	309
2	H14年 (東)	433	(西) 443	876
	H16年	291	290	581
	H18年	-	-	
	H20年	287	431	718
	H24年	676	668	1,344
3	H14年 (東)	-	(西) -	
	H16年	-	-	
	H18年	-	-	
	H20年	42	15	57
	H24年	37	30	67
4	H14年 (東)	243	(西) 625	868
	H16年	168	207	375
	H18年	-	-	
	H20年	159	683	842
	H24年	1,027	245	1,272
5	H14年 (北)	958	(南) 901	1,859
	H16年	551	468	1,019
	H18年	1,507	1,285	2,792
	H20年	988	527	1,515
	H24年	1,605	941	2,546
6	H14年 (北)	1,382	(南) 1,415	2,797
	H16年	1,462	1,175	2,637
	H18年	2,228	1,726	3,954
	H20年	1,785	1,263	3,048
	H24年	1,595	1,375	2,970
7	H14年 (北)	650	(南) 424	1,074
	H16年	563	412	975
	H18年	732	508	1,240
	H20年	933	573	1,506
	H24年	891	498	1,389
8	H14年 (東)	1,004	(西) 1,431	2,435
	H16年	834	960	1,794
	H18年	1,017	910	1,927
	H20年	1,085	1,114	2,199
	H24年	797	749	1,546

NO.	(行)方向	(行)方向	10時間合計
1	(東) 476	(西) 537	1,013
2	(東) 901	(西) 1,024	1,925
3	(東) 58	(西) 68	126
4	(東) 48	(西) 91	139
5	(東) 275	(西) 360	635
6	(北) 2,506	(南) 1,976	4,482
7	(北) 2,200	(南) 1,815	4,015
8	(東) 420	(西) 354	774

●表 1-15 各調査地点の自転車通行量
(H24 年度調査)

●表 1-14 各調査地点の歩行者通行量

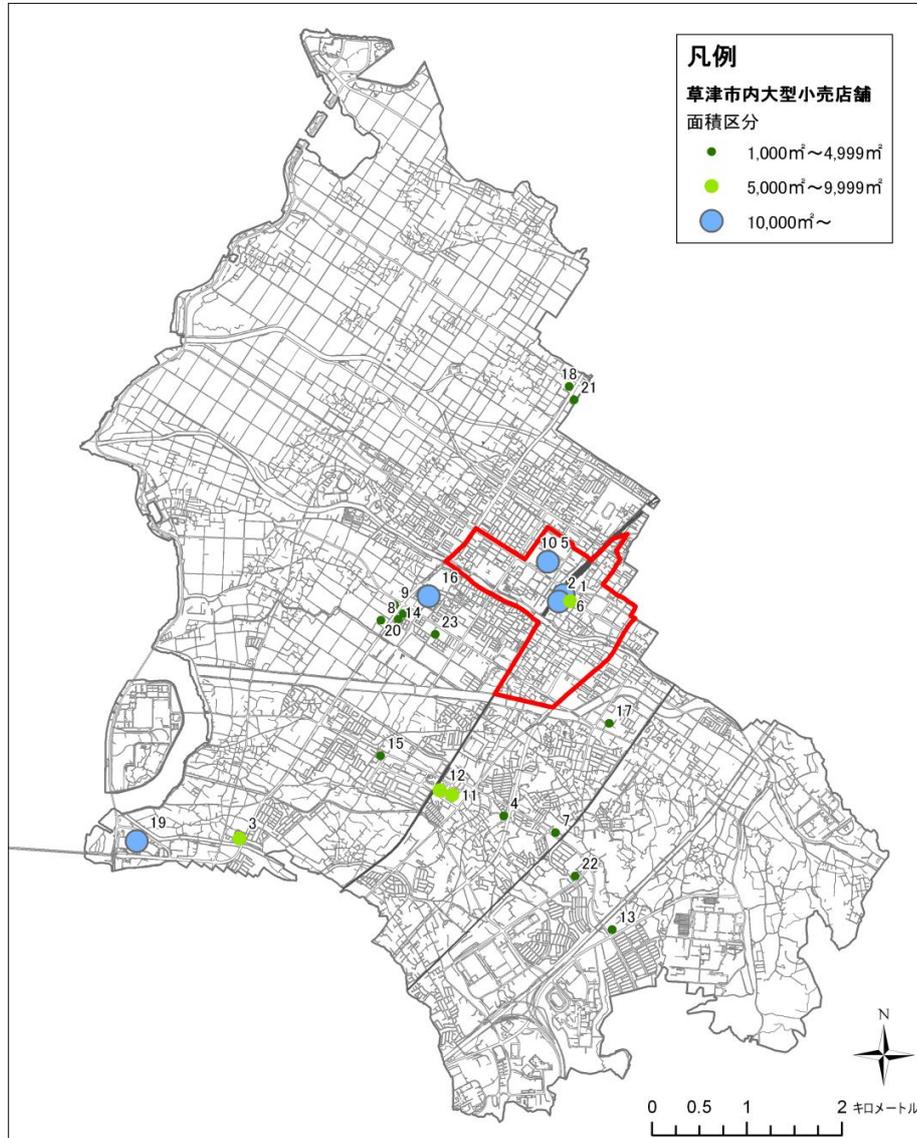


●図 1-64 歩行者通行量の推移

⑤大型店の概要

◎鉄道駅周辺、主要道路沿いに大型小売店舗が集中

延床面積 5,000 m²を超える大型小売店舗は鉄道駅周辺に集中しており、その他は主に主要道路沿いに分布している。市の南西部には商業施設面積 86,000 m²、施設全体の床延面積が 177,000 m²の超大型の複合施設（19番）が立地している。



● 図 1-65 草津市内の延床面積 1000 m²以上の大型小売店舗の分布
 （出典：東洋経済新報社 『全国大型小売店舗総覧』 2012. 8. 8 発行）



● 図 1-66 大型小売店舗（左：郊外型、右：ロードサイド型）

番号	名称	住所	主な取扱い商品	開店日	店舗面積 (㎡)
1	くさつ平和堂	大路 1-10-27	食料品、衣料品	1968年9月	9,243
2	エルティ 932	大路 1-1-1	食料品、家庭用品	1989年4月	13,925
3	KINSHIN 近江大橋店	新浜町 55-1	家具類	1994年11月	9,138
4	マツヤスーパー矢倉店	東矢倉 4-555	食料品、家庭用品	1995年1月	1,565
5	エイスクエア (平和堂アル・プラザ草津)	西渋川 1-23-30	総合	1996年3月	55,089
6	近鉄百貨店草津店	渋川 1-1-50	総合	1997年9月	21,700
7	平和堂フレンドマート 追分店	追分町 1236	食料品、衣料品	1997年10月	2,300
8	ヒマラヤスポーツ草津店	木川町 91	スポーツ用品	1997年12月	3,629
9	ケーズデンキ草津本店	木川町 302-1	家電	1997年12月	3,400
10	エイスクエア・ノース (ディオワールド草津店)	西渋川 1-23-1	食料品、家庭用品	1999年2月	13,435
11	SEIYU 南草津店	野路 1-13-36	食料品、衣料品	2000年6月	6,428
12	フェリエ南草津	野路 1-15-5	衣料品、身の回り品	2002年7月	5,422
13	スターグリーンヒル店	若草 1-2-1	食料品、家庭用品	2004年12月	1,607
14	サンミュージック DELIGHT 草津店	木川町 72	書籍・雑誌、音楽ソフト	2005年6月	2,646
15	平和堂フレンドマート 南草津店	南草津 5-1-1	食料品、家庭用品	2005年10月	1,750
16	ホームセンターコーナン 草津店	木川町 389	DIY 関連用品、 家庭用品	2005年12月	18,482
17	平和堂フレンドマート 志津東草津店	追分町 5	食料品、家庭用品	2007年6月	2,980
18	マックスバリュ駒井沢店	駒井沢町 78	食料品、家庭用品	2007年10月	4,510
19	イオンモール草津 (イオン草津)	新浜町 300	食料品、家庭用品	2008年1月	39,001
20	J. J. TOWN kinokawa (ドン・キホーテ草津店)	木川町 311-1	食料品、家庭用品	2008年4月	3,089
21	BOOKOFF 滋賀草津駒井沢店	駒井沢町 33	書籍・雑誌、音楽ソフト	2009年7月	1,312
22	ハイパーブックス かがやき通り店	追分町 1046-3	書籍・雑誌、音楽ソフト	2009年8月	2,388
23	スーパーマーケットバロー 草津店	草津町 1986	食料品、家庭用品	2010年5月	1,759
	関西西友草津店 (※2000年2月閉店)	大路 2丁目	衣料品、家庭用品、食 品	1973年11月	7,351

※網掛け：中心市街地内の大型小売店舗

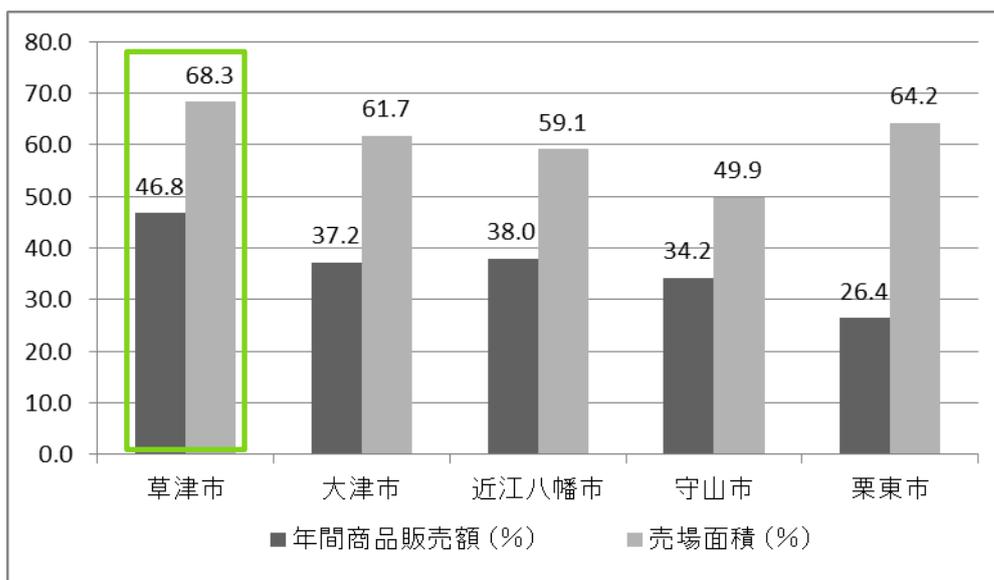
●表 1-16 草津市内の大型小売店舗一覧（出典：東洋経済新報社『全国大型小売店舗総覧』2012. 8. 8 発行）

◎周辺都市と比較しても高い草津市の大規模小売店舗の占める割合

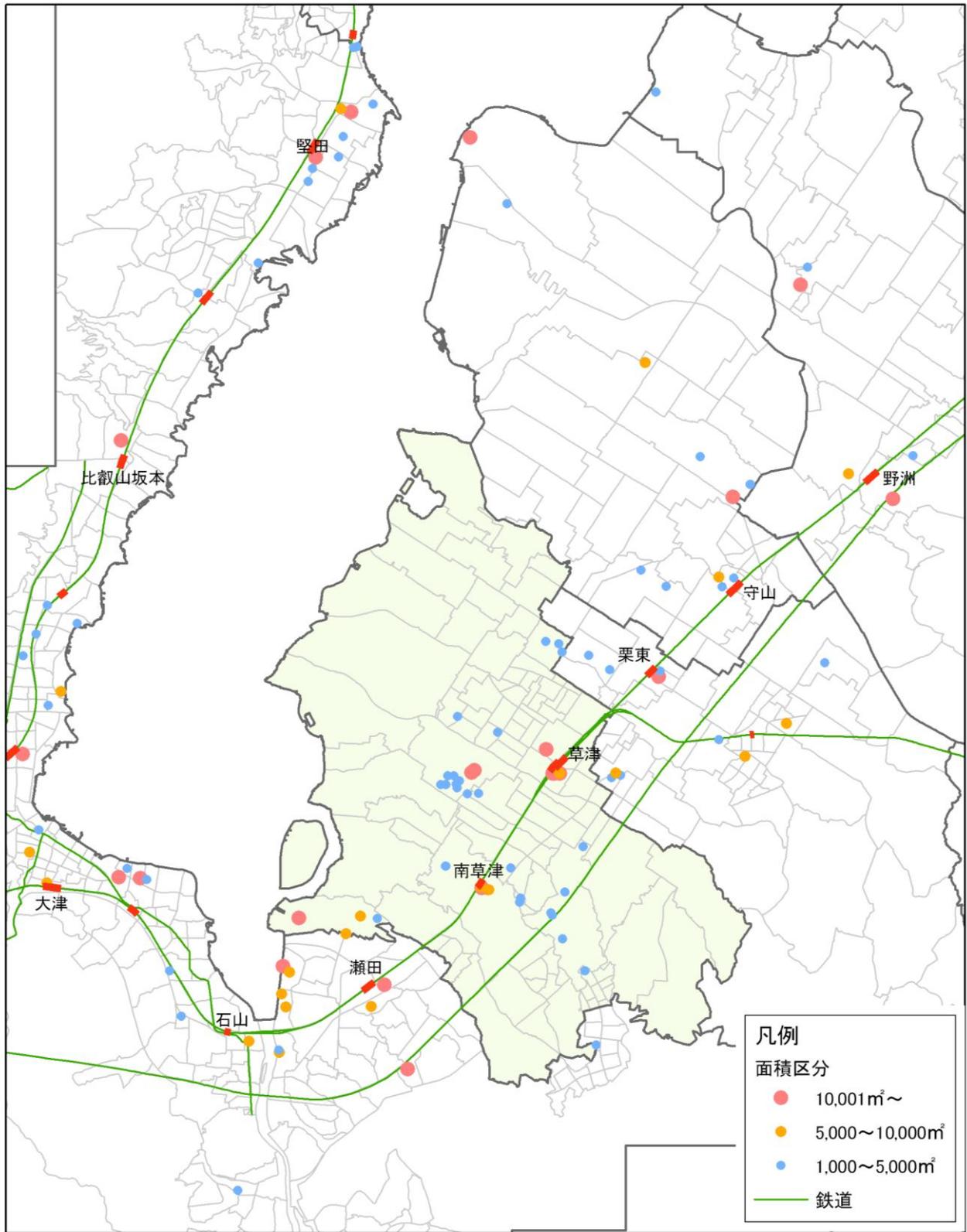
周辺の市と比較して、小売業に占める大規模小売店舗の商品販売額、売り場面積の割合は共に高く、販売額は小売業全体のほぼ半分の割合を占めている。このことから、消費者の商品の購入場所が大規模小売店舗に集約している状況が分かる。

	大規模小売店舗数	大規模小売店舗内				小売業に占める割合			
		小売事業所数 (店)	従業者数 (人)	年間商品販売額 (万円)	売場面積 (㎡)	事業所数 (%)	従業者数 (%)	年間商品販売額 (%)	売場面積 (%)
滋賀県	183	1,278	25,867	47,057,145	1,013,784	11.0	30.5	34.6	56.7
草津市	18	111	3,021	6,822,185	128,083	13.8	38.1	46.8	68.3
大津市	34	363	6,228	10,401,845	223,428	15.9	33.2	37.2	61.7
近江八幡市	13	112	1,848	3,611,984	81,162	15.2	32.2	38.0	59.1
守山市	11	63	1,133	2,545,961	43,167	11.0	27.4	34.2	49.9
栗東市	10	42	955	2,029,419	42,436	10.7	25.6	26.4	64.2

●表 1-17 草津市と周辺都市の大規模小売店舗の状況（出典：平成 19 年商業統計）



●図 1-67 小売業に占める大規模小規模店舗割合（出典：平成 19 年商業統計）



● 図 1-68 草津市と周辺都市の大規模小売店舗の分布